平成30年度

宮城大学
履修ガイド
看護学群

MIYAGI UNIVERSITY
CURRICULUM GUIDE 2018
SCHOOL OF NURSING

宮城大学
履修ガイド
看護学群

MIYAGI UNIVERSITY
CURRICULUM GUIDE 2018
SCHOOL OF NURSING

この履修ガイドは卒業まで使用するものです。

はじめに

　この「履修ガイド」には、宮城大学に入学された皆さんにとって、大学での４年間の学びが充実したものとなるよう学修計画を立て、実現していくために必要となる基本的な情報がまとめられています。

　大学では、高校までとは違い、入学した当初から自分自身で考え、行動することが求められます。高校ではあらかじめ時間割のほとんどが決められており、自分自身で考えて授業科目を選択することはあまりなかったかもしれませんが、大学では、多くの授業科目の中から、自分の勉強したい科目を調べ、登録するといった作業を自分の判断で責任を持って行わなければなりません。この一連の履修に関係する要件や各種手続きのほか、入学から卒業までの基本的な流れ、基盤教育・専門教育課程の特徴等を「履修ガイド」で説明しています。

　また、宮城大学では、学群・学類・コースごとに「進級・卒業に必要な単位数」を定めています。この条件を満たし、順調に進級・卒業できるよう、この「履修ガイド」を熟読した上で、各授業科目の内容が記載された「シラバス」を活用して、卒業後の進路も見据え、納得のいく学修計画を立ててください。

　「履修ガイド」は、入学時だけではなく、毎年の履修登録のとき、学修計画や進路で迷ったり、分からないことに出会ったとき、読み返してみることで、解決の方法や糸口が見つかるような「便利帳」の役割も果たしていますので、卒業まで大切に手元に置いて活用してください。

目次

Ⅰ 宮城大学カリキュラムの全体像 06
1 宮城大学の教育目標 06
2 宮城大学の教育基本方針 06
3 学群・学類について 06

Ⅱ 総論 09
1 入学から卒業までの基本的な流れ 09
2 学群とキャンパスについて 09
3 学年及び休業日と、学期、時間割について 09
(1)学年、学期及び休業日 09
(2)時間割 09
4 学籍と在学期間について 10
(1)学籍の異動 10
(2)修業年限及び休学期間の限度、在学年限 10
5 単位について 11
(1)単位の計算基準 11
(2)卒業要件単位数 11
(3)単位認定について 11
6 履修登録について 12
7 授業について 12
(1)授業科目 12
(2)シラバス(授業計画書) 12
(3)授業への欠席及び遅刻 12
(4)休講 12
(5)補講 12
(6)学生による授業評価について 12
8 成績の評価方法及びコース変更について 13
(1)試験 13
(2)レポート・製作物の提出方法 13
(3)追試験 13
(4)再試験 13
(5)グローバルコミュニケーション科目の受験資格の認定について 14
(6)成績発表について 14
(7)GPA制度 14
9 進級について 15
10 学類の決定・履修コースの選択について 15
(1)学類の決定 15
(2)履修コースの選択 15
11 転学群・転学類について 15
(1)転学群・転学類について 15
(2)コース変更について 15
12 卒業認定・学位授与について 16
13 学修支援について 16
(1)教員へ相談したいとき 16
(2)職員へ相談したいとき 16
(3)学生相談室、保健室について 16
14 その他 17
(1)大学からの連絡 17
(2)気象状況や自然災害等による休講・試験の延期 17
(3)学生保険について 17
(4)経済支援について 17

Ⅲ 履修登録 18
1 履修登録とは 18
2 履修登録の手順 18
(1)事前作業 18
(2)履修登録 18
(3)履修登録修正 19
(4)時間割の印刷 19
(5)事務部へ学生時間割を提出 19
(6)履修登録取消期間 19
(7)履修登録科目の確定 19
3 履修登録上の留意点 19
(1)履修登録可能な単位数の上限 19
(2)単位修得済み科目の履修登録の禁止 19
(3)集中講義科目の日程確認 19
(4)その他 19

Ⅳ 全学共通科目 ほか 21
1 コミュニティ・プランナープログラムについて 21
(1)コミュニティ・プランナープログラムとは 21
(2)単位 21
(3)プログラムの考え方および特色 22
(4)履修方法および履修手続等 22
2 他学群・他学類履修、他大学等履修、入学前既修得単位の単位認定について 24
(1)他学群又は他学類の履修について 24
(2)単位認定に係る申請について 24
(3)単位認定された授業科目の本学開講科目との振替について 24
(4)振替できない科目の卒業要件単位数への算入について 25
(5)単位認定を受けた授業科目の成績表記について 25
3 学都仙台単位互換ネットワーク　単位互換制度 26
(1)学都仙台単位互換ネットワーク　単位互換制度とは 26
(2)単位互換制度の申請方法 26
4 学外研修・グローバルインターンシップ 27
(1)学外研修・グローバルインターンシップとは 27
(2)科目の履修方法 27

Ⅴ 基盤教育 31
基盤教育の教育目標 32
1 フレッシュマンコア 33
(1)フレッシュマンコア（FC）とは 33
(2)フレッシュマンコアの基幹科目 33
2 基礎教育における４つの科目分野 35
(1)グローバルコミュニケーション分野（GC） 35
(2)ソーシャルサイエンス分野（SS） 35
(3)ナチュラルサイエンス分野（NS） 35
(4)アートサイエンス分野（AS） 35
3 留学生対象科目 36
4 教育課程の一覧 36

Ⅵ 看護学群 37
1 看護学群看護学類について 37
(1)カリキュラムの特徴 37
(2)看護学群の教育目標 38
(3)看護学群のカリキュラムマップ 39
(4)看護学群の４年間の学びの流れ 40
(5)看護学類科目関連図 42
2 看護学類の科目配当 44
(1)看護師教育課程科目配当表 44
(2)保健師教育課程科目配当表 46
(3)養護教諭教育課程科目配当表 48
3 卒業に必要な単位数及び卒業要件 50
4 教育課程の特色 51
(1)基盤教育科目 51
(2)専門教育科目 51
5 看護師教育課程 52
6 保健師教育課程 53
(1)保健師国家試験受験資格について 53
(2)選択科目の履修・単位修得について 53
(3)「公衆衛生看護学実習」について 53
7 養護教諭教育課程 54
(1)養護教諭一種免許状の取得について 54
(2)選択科目の履修・単位修得について 54
(3)養護実習・教職実践演習について 54
8 履修での留意事項等 55
9 履修モデル 56

宮城大学の建学の理念

ホスピタリティ精神とアメニティ感覚に溢れ、高度な専門性と実践的能力を身につけた、地域の発展をリードし、世界に貢献できる人材を育成するとともに、学術・文化の向上と豊かで活力のある地域社会の形成に寄与することを建学の理念に掲げています。

宮城大学の目的

地域社会及び他の大学、研究機関等との自由かつ緊密な交流及び連携のもとに、看護、事業構想及び食産業に関する教育研究を行うことにより、学術文化の振興に資するとともに、創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材を育成し、もって地域の産業及び社会の発展に寄与することを目的としています。

宮城大学各学群の教育研究上の目的

看護学群	生命の尊厳を基盤とする豊かな人間力を備えて、科学的思考力とマネジメント能力をもち、ヒューマンケアを中核とした創造的な看護を展開し、地域社会及び多分野・異文化の人々と協働して学際的及び国際的に活躍できる人材を育成すること。
事業構想学群	現代社会の諸課題を多角的・グローバルな視点で論理的にとらえ、その課題解決に向けた事業を実行可能かつ持続可能なものとして構築する能力を身につけるとともに、地域資源の活用や新たな価値創造を志向し、産業、行政及び社会の各分野で先導的役割を担うことができる人材を育成すること。
食産業学群	食資源開発及び食材生産から食品製造・流通・消費に至るまでのフードシステムについて幅広い科学知識と技術を持ち、食産業全体を理解し、東北地域から世界まであらゆるレベルで食の未来を開拓できる意欲と能力を有する人材を育成すること。

Ⅰ. 宮城大学カリキュラムの全体像

1 ―宮城大学の教育目標

宮城大学の建学の理念、目的を踏まえ、主体性を持って協働的に行動し、社会の持続的な発展に貢献できる人材の育成を教育目標として定めています。

2 ―宮城大学の教育基本方針（ディプロマポリシーとカリキュラムポリシー）

（1）ディプロマポリシーとは

宮城大学の教育目標に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定めた基本的な方針を「ディプロマポリシー」といいます。これは、学生の学修成果の目標ともなるものです。

（2）カリキュラムポリシーとは

「ディプロマポリシー」の達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定めた基本的な方針を「カリキュラムポリシー」といいます。

※基盤教育・各学群・学類のディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは、各章の教育目標を参照してください。

3 ―学群・学類について

宮城大学は、学群・学類（3 学群・6 学類）により構成されています。

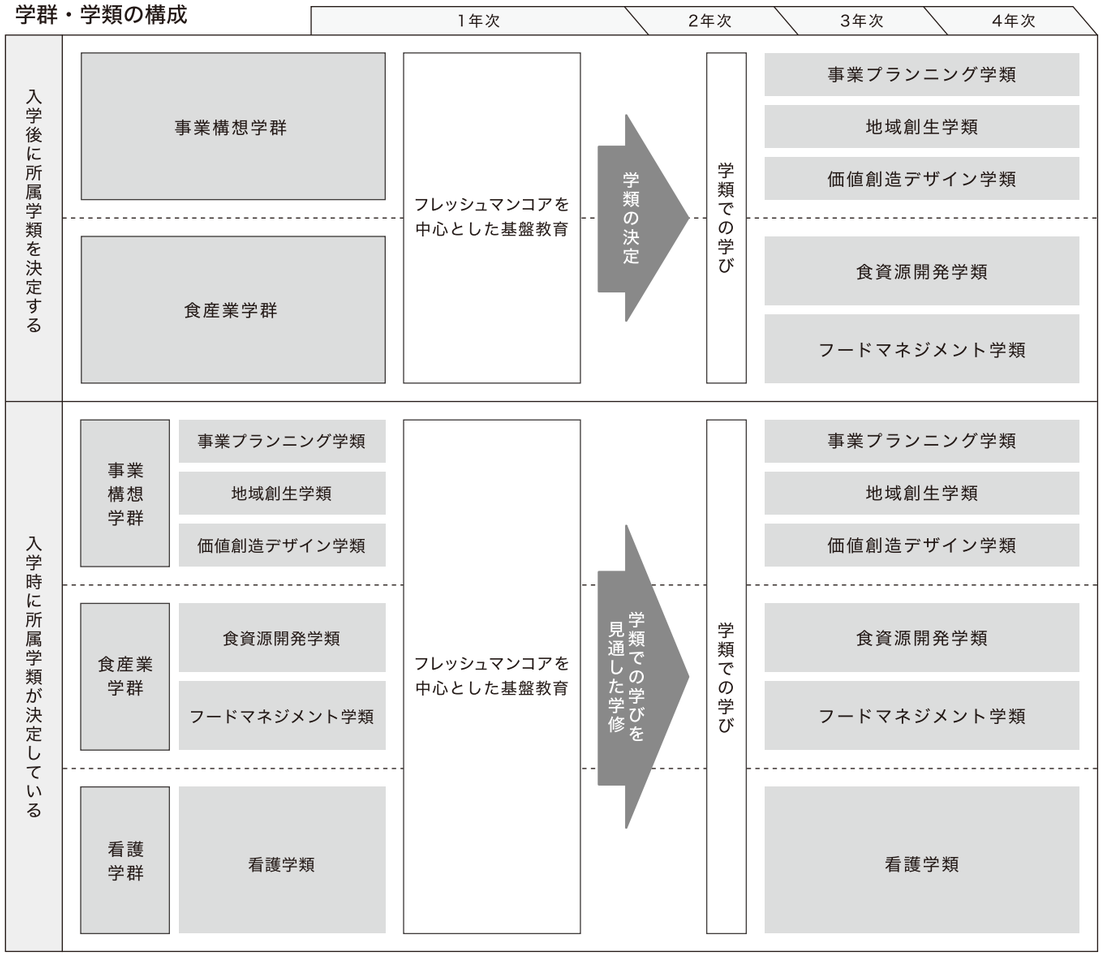
学群	学類
看護学群	看護学類
事業構想学群	事業プランニング学類
	地域創生学類
	価値創造デザイン学類
食産業学群	食資源開発学類
	フードマネジメント学類

看護学群では、入学時に所属する学類が決まっており、2 年次からの学びを見通し、1 年次から学修に取り組むことができます。

また、事業構想学群及び食産業学群（一部入学生を除く）では、2 年次に所属する学類が決定されます（AO 入試での入学生を除く）。入学後 1 年間をかけてマッチングを行い、自分が進む学類を決定します。

※基盤教育・各学群・学類のカリキュラムの詳細は、各章のカリキュラムの特徴を参照してください。

学群・学類の構成



II . 総論

ここでは、宮城大学における教育課程の修業に係る共通事項を説明します。これらの内容の詳細は、宮城大学学則、宮城大学履修規程及び宮城大学学位規程に記載されています。

1 ―入学から卒業までの基本的な流れ

入学から卒業・学位授与までの基本的な流れは下図のとおりです。それぞれの段階で必要な手続きや申請がありますので注意してください。

入学 ▶ 履修登録 ▶ 授業・授業評価 ▶ 試験 ▶ 成績評価・単位修得 ▶ 進級（学類決定・コース選択） ▶ 卒業研究 ▶ 卒業・学位授与

2 ―学群とキャンパスについて

宮城大学では、看護学群・事業構想学群・食産業学群及び各研究科を設置しています。それぞれの学群は、以下のキャンパスに所在しています。

	宮城大学大和キャンパス	宮城大学太白キャンパス
設置学群	看護学群・事業構想学群及び研究科	食産業学群及び研究科
住所	〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑 1 番地 1	〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立 2-2-1
電話	022-377-8200	022-245-2211

3 ―学年及び休業日と、学期、時間割について（学則第６条、第７条、第８条）

（1）学年、学期及び休業日

本学の教育課程は、以下の日程で運用しています。また、学年を前期と後期にわけて単位認定を行う「前後期制」を採用しています。

	期間
学年	４月１日に始まり、翌年３月 31 日に終わります。
前期	４月１日から９月 30 日まで
後期	10 月１日から３月 31 日まで
休業日	土・日・祝日・開学記念日５月１日
春季休業日 夏季休業日 冬季休業日	別に定める。(春季・夏季・冬季休業の日程は年度ごとに変更になる場合があります。当該年度の長期休業の日程は，学内ウェブサイトの「学年暦」を確認してください。)

※なお，定期試験は，前期・後期末に期間を定めて実施します。

（2）時間割

授業は、前期・後期の期間内のうち、月曜日から金曜日まで、下表の時間割に沿って行われます。

時限	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
時刻	8：50 ～ 10：20	10：30 ～ 12：00	12：50 ～ 14：20	14：30 ～ 16：00	16：10 ～ 17：40

また、通常の時間割以外に、以下の開講形態があります。
①集中講義：夏季休業等の休業日に，集中的に授業を開講するものです。
②隔週開講：１週おきに開講するものです。
③指定日開講：特定の日時に開講するものです。
その他、学外の実習等、通常の時間割以外の時間帯に授業を行う場合があります。

4 学籍と在学期間について（学則第 18 条、第 19 条、第 21 条、第 23 条、第 24 条、第 26 条）

学籍とは、本学に所属する学生であることを示す籍をいいます。

（1）学籍の異動

本学に入学してから卒業するまでの間、通常通り修業する状況を「在学」として取り扱います。学生の申請や大学の決定により「休学」「転学」「退学」「除籍」として学籍を異動する場合があります。これら学籍の異動に必要な手続きは、学内ウェブサイトを参照してください。

また、学籍の異動は、進級要件や卒業要件、授業料免除申請や奨学金の付与等に影響することがあります。

（2）修業年限及び休学期間の限度、在学年限

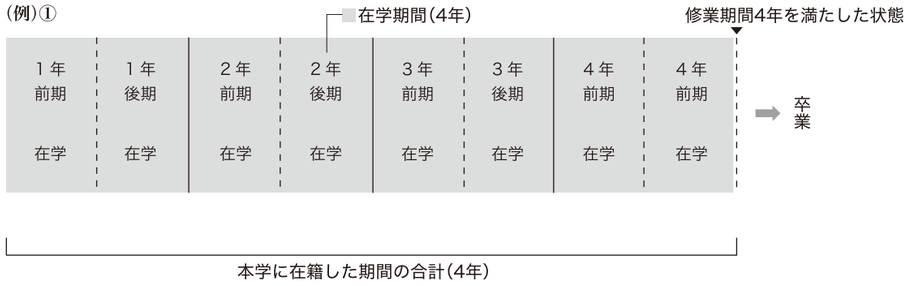
本学では、必要な修業の期間や、在学できる期間の限度を以下のとおり定めています。

・修業期間：修業した期間を「修業期間」といいます。
・修業年限：卒業までに修業すべき年数を定めています。
・在学期間：在学した期間を「在学期間」といいます。
・在学年限：在学できる年数です。在学年限を超えて在学することはできません。
・休学期間：休学した期間を「休学期間」といいます。休学期間は、修業期間や在学期間には含みません。

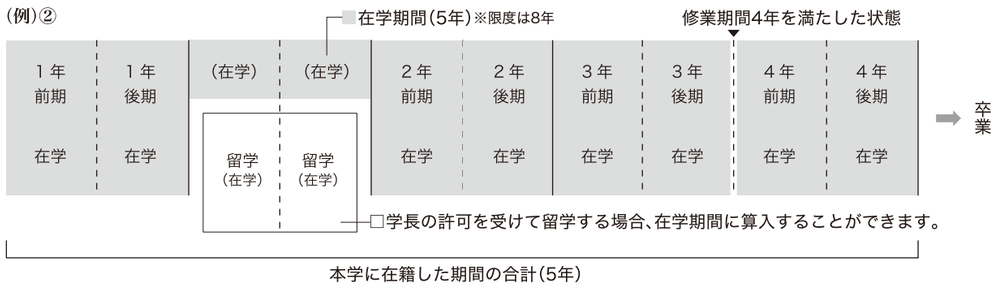
修業年限	在学年限	休学期間の限度
4 年	8 年	4 年

※引き続き 1 年を超えて休学することはできません。ただし、特別の理由がある場合は、学長の許可を得て休学期間を 2 年まで延長することができます。
※編入学・転入学・再入学・転学を許可された学生の在学期間及び在学年限については、関係規程により個々に定められます。

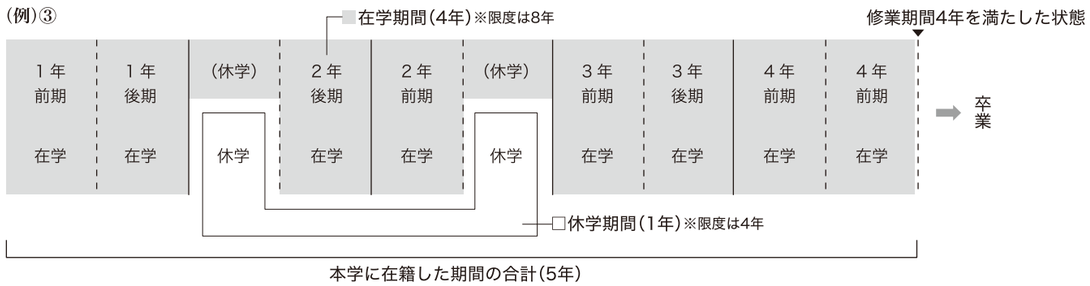
（例）①



（例）②



（例）③



5 単位について（学則第35条、第36条、第37条、第38条、第39条、第40条、第41条, 宮城大学他学群・他学類履修及び他大学履修に関する実施要項）

単位とは、各科目の授業時間と学修の量を数値で示したものです。学群ごとに卒業に必要な単位数が定められており、個々の科目について所定の時間を履修し、試験その他の方法により合格と判定されたときに、はじめて修得できます。また、授業の開講形態（講義、演習、実習等）、開講時間数等により修得できる単位数が定められています。

（1）単位の計算基準

授業科目「1 単位」は、「教室内における授業時間」と「事前・事後学修時間」とを併せて 45 時間の学修時間により構成されることを基準としています。また、講義、演習、実習等の授業の方法に応じ、概ね以下の授業時間及び単位数としています。

講義	1 時限（90 分）の授業 15 回と事前・事後学修で 2 単位
演習	1 時限（90 分）の授業 15 回と事前・事後学修で 1 単位 (2 時限構成の場合 2 単位)
実験・実習・実技	2 時限（180 分）又は 3 時限（270 分）の授業 15 回で 1 単位とします。 実験・実習と講義の併用は、2 時限分の授業 15 回と事前・事後学習で 2 単位とします。

（2）卒業要件単位数

卒業するためには、前述の修業年限を満たした上で、各学群で定める所定の卒業要件単位数を修得しなければなりません。必要単位数は下表のとおりです。

	看護学群	事業構想学群	食産業学群
卒業要件単位数	126単位	125単位	127単位

（3）単位認定について

合格した科目の単位は、前期・後期末に認定されます。集中講義については、開講時期に応じて、通常の科目と単位認定時期が異なる場合がありますので注意してください。なお、前期・後期の途中で退学・休学・除籍をした場合、その期に履修している科目の単位は認定されません。

また、他学群・他学類の授業科目の履修を希望する場合は、学長の承認を得て、60 単位を超えない範囲で単位を修得することができます。他の大学又は短期大学における授業科目の履修、大学以外の教育施設における学修、入学前の既修得単位についても、申請・審査のうえ、学長が教育上有益と認められる場合、他学群・他学類の授業科目で修得した単位数と合わせて 60 単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができます。

これらの他学群・他学類履修、他大学等履修、入学前単位の履修・単位認定に係る申請や、本学開講科目との振替、卒業要件単位への算入などについては、詳細をP24（IV全学共通科目ほか）に記載しています。

6 履修登録について（履修規程第３条、第４条、第５条）

授業に出席し、所定の単位を修得するためには、履修登録が必要です。履修登録の手順の詳細はP18(Ⅲ履修登録) に記載しています。

7 授業について

（1）授業科目

授業科目には、講義，演習，実験・実習、実技があり、必修科目、選択必修科目、選択科目に大別されます。卒業要件として、これらの科目の修得単位数をそれぞれ定めています。

必修科目	学群，学類，コースにおいて，その教育目的を達成するために，修得が義務付けられている科目です。修得が進級要件に含まれる場合があります。
選択必修科目	指定された科目群の中から，学生が一定数の科目を選択して修得することが義務づけられている科目です。修得が進級要件に含まれる場合があります。
選択科目	学生の自由選択により履修することができる科目です。

（2）シラバス（授業計画書）

授業科目毎の授業内容を明示した授業計画等を「シラバス（syllabus）」といいます。
・シラバスには、授業科目の授業概要、授業計画、評価方法などが簡潔に説明されています。
・学内ウェブサイトの「学務管理システム」で参照することができます。
・シラバスは、履修登録の際や、履修の過程において、授業の目的や、全体の流れを確認することに活用してください。

（3）授業への欠席及び遅刻

単位の修得には、授業への出席が必要です。
・一定の出席時間に満たない場合は、試験の受験資格を喪失します。
・欠席届や忌引の取扱いはありません。欠席及び遅刻に対する取扱いは担当教員が判断します。

（4）休講

授業が休止になることを休講といいます。休講は，下表の方法で連絡します。

大和キャンパス	事務部前掲示板等に掲載，学務管理システムに掲載
太白キャンパス	講義棟１階の掲示板等に掲載，学務管理システムに掲載

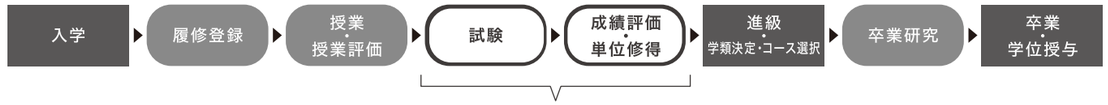
※なお，休講は担当教員の都合による他，気象状況や自然災害等による場合があります。気象状況や自然災害等における休講・試験の延期については，P17 に記載されています。

（5）補講

補講は，休講等により授業時間が不足し，所定の内容が修得しきれないと教員が判断した場合に行われます。補講の有無は，授業中にアナウンスされるほか，休講の連絡方法と同様の方法で連絡します。

(6) 学生による授業評価について

本学では，授業をより充実したものに改善することを目的に，学生による授業評価アンケートを実施しています。学期末に学内ウェブサイト等で案内されますので，履修した科目について回答してください。



8 成績の評価方法について（履修規程第７条、第８条、第９条、第 10 条、第 11 条）

授業科目における成績は、シラバスで示された授業の到達目標に対する学生の学修到達度によって下表のように評価されます。「秀」、「優」、「良」及び「可」を合格として単位が付与されます。学修到達度は、その授業の開講時期の末に期間を定めて行う試験によって評価されます。

なお、必修科目について成績の評価が「不可」となり、単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再履修を行い、単位を修得する必要がありますので注意してください。

評価	評点	学修到達度との関係
秀	90点以上	学修到達度が特に優秀な水準で到達目標に達している。
優	80点以上90点未満	学修到達度が優秀な水準で到達目標に達している。
良	70点以上80点未満	学修到達度が良好な水準で到達目標に達している。
可	60点以上70点未満	学修到達度が到達目標に達している。
不可	60点未満	学修到達度が到達目標に達していない。

（1）試験

試験は，筆記試験，口述試験，実技試験又は実験，実習，課題レポートにより行います。受験の際は，学生証を机上に提示することで本人確認を行いますので，学生証を必ず持参してください。下表の内容に該当する場合は，試験を受けることができませんので注意してください。

①	履修登録をしていない学生。
②	出席時間が授業時間の5分の4に満たない学生。
③	試験時刻に20分を超えて遅参した学生。

試験の日程は，試験期間開始前に，大和キャンパスにおいては事務部前掲示板で，太白キャンパスにおいては講義棟１階の掲示板でお知らせします。

（2）レポート・制作物等の提出方法

レポート・制作物等を提出する際は，次の点に注意してください。

提出方法	担当教員により，提出場所や方法の指示がなされますので，指示に従ってください。 また，提出期限を必ず守って，所定の場所に提出してください。 下記のレポートボックスへ提出が指示される場合があります。	
	[大和キャンパスレポートボックス] ※本部棟3階及び4階、研究ラウンジ受付に設置	[太白キャンパスレポートボックス] ※管理棟1階事務部窓口付近に設置
	※誤って他の科目のレポートボックスに投函されたレポートは、提出期限後に未提出扱いとして本人に返却します。	
記載事項	①所属学群・学類・コース，②学籍番号，③氏名，④授業科目名，⑤担当教員名を記載してください。 その他担当教員から指示された事項があれば記入してください。 氏名等が未記入の場合は，評価の対象となりませんので注意してください。	

（3）追試験

所定の試験に欠席した学生に対する追試験は実施しません。ただし，病気その他特別の理由によりやむを得ず受験できなかった学生に対しては，本人からの願い出により追試験を行うことがあります。追試験の申請は，試験終了後 1 週間以内に，所定の様式により申請を行い，担当教員の承認を得る必要があります。様式や添付書類等は，学内ウェブサイトを参照してください。

（4）再試験

試験を受験して不合格になった学生に対する再試験も実施しません。ただし，試験終了後に教授会等が必要と認めた場合は実施されることがあります。なお，再試験の成績評価は可が上限となります。

入学 ▶ 履修登録 ▶ 授業・授業評価 ▶ 試験 ▶ 成績評価・単位修得 ▶ 進級・学類決定・コース選択 ▶ 卒業研究 ▶ 卒業・学位授与

(5) グローバルコミュニケーション科目の受験資格の認定について

基盤教育の「グローバルコミュニケーション科目」では，学外の検定試験等において所定の条件を満たした場合、申請・審査の上、授業の出席を一部免除することができます。ただし、学外の検定試験等については、入学後に受験したものに限られるほか、出席を一部免除された場合でも，定期試験は必ず受験する必要がありますので注意してください。

詳しくは「グローバルコミュニケーション科目」の専任教員へお問合せください。

(6) 成績発表について

授業科目における成績の評価については、前期は 9 月末、後期は 3 月末に学内ウェブサイトで確認することができます。また、評価の内容は成績証明書に反映されます。

※「不可」の評価となった科目に限り、今後の学修に資するため、成績発表日を含む 10 日間のみ、成績質問を受け付けます。成績質問は、学内ウェブサイトから所定の様式を取得し、提出してください。

(7) GPA制度

本学では、GPA制度を採用しています。GPA（グレードポイント平均値）とは、各授業科目の 5 段階の成績評価に対応して 4 ～ 0 のGPを付与して算出する、1 単位あたりの平均値です。GPは下表の数値としています。

成績	秀	優	良	可	不可
GP	4	3	2	1	0

・学修状況および成果を示す指標として「学期GPA」「年度GPA」「通算GPA」の 3 種類を設定しています。計算式は以下としており、小数点第 3 位以下を切り捨てて表記しています。

①学期GPAの計算式

$$\text{学期GPA} = \frac{\text{（その学期に評価を受けた科目で得たGP×その科目の単位数）の合計}}{\text{その学期に評価を受けた科目の単位数の合計}}$$

②年度GPAの計算式

$$\text{年度GPA} = \frac{\text{（その年度に評価を受けた科目で得たGP×その科目の単位数）の合計}}{\text{その年度に評価を受けた科目の単位数の合計}}$$

③通算GPAの計算式

$$\text{通算GPA} = \frac{\text{（（各学期に評価を受けた科目で得たGP×その科目の単位数）の合計）の総和}}{\text{（各学期に評価を受けた科目の単位数の合計）の総和}}$$

・GPA は、卒業要件となる授業科目に含まれるものを対象科目としています。以下の科目はGPA対象科目に含まれません。

ア）編入学または転入学した際の単位認定科目
イ）本学入学前に修得した単位認定科目
ウ）他大学等との単位互換等で修得した科目

・履修登録した科目を放棄すると、科目の成績は「不可」となり通算GPA に算入されます。履修を取り消す場合は、必ず履修取り消し期間中に所定の手続きを行ってください。

入学 ▶ 履修登録 ▶ 授業・授業評価 ▶ 試験 ▶ 成績評価・単位修得 ▶ 進級・学類決定・コース選択 ▶ 卒業研究 ▶ 卒業・学位授与

9 進級について（履修規程第 12 条）

	看護学群	事業構想学群・食産業学群
全年次共通	配当年次において未修得の必修単位が通算 6 単位以下であること。 （複数の年次で配当されている科目は，上級年次が配当年次）	
2 年次進級要件	卒業要件単位数のうち 30 単位以上を修得していること。	
3 年次進級要件	卒業要件単位数のうち64単位以上を修得していること。 1･2年次に開講されている必修の専門教育科目の単位をすべて修得していること。	卒業要件単位数のうち64単位以上を修得していること。
4 年次進級要件	卒業要件単位数のうち96単位以上を修得していること。3年次に開講されている実習(母性，小児，成人，老年，精神，地域，在宅の7つの領域)の単位をすべて修得していること。	卒業要件単位数のうち96単位以上を修得していること。 ※事業構想学群は，加えて3年次に開講されている卒業研究科目の単位を修得していること。

10 学類の決定・履修コースの選択について（履修規程第 13 条、第 14 条）

(1) 学類の決定

入学時に学類が決定していない学生は，1 年次末までに所定の方法により所属する学類が決定されます。学類毎に定員を設定していますので，必ずしも希望する学類に所属できるとは限りません。学類の決定方法等については，ガイダンス等で案内されます。

(2) 履修コースの選択

事業構想学群と食産業学群では、学類毎に専門性の高い科目を学べるよう履修コースを設けていますので、履修コースの届出時期までに希望するコースの届出を行ってください。

学群	学類	履修コース	届出時期
看護学群	看護学類	―	―
事業構想学群	事業プランニング学類	事業戦略コース 事業管理コース	2年次の7月末日
	地域創生学類	地域政策コース 地域科学コース	
	価値創造デザイン学類	感性情報デザインコース 生活環境デザインコース	
食産業学群	食資源開発学類	動物生産科学コース 植物生産科学コース	
	フードマネジメント学類	フードビジネスコース フードサイエンスコース	2年次の1月末日

11 転学群・転学類及びコース変更について

(1) 転学群・転学類について（学則第 22 条、転学群及び転学類に関する規程）

諸事情により転学群・転学類を希望する場合、後述するクラス担当教員等に相談してください。転学群及び転学類の選考は、原則として欠員のある場合に限り行います。また、新たな転学類等を受け入れるかどうかは、教育上の支障の有無を勘案した上で判断するので、毎年度必ず選考が行われるとは限りません。詳細は、学内ウェブサイトにある「宮城大学転学群及び転学類に関する規程」で確認してください。

(2) コース変更について（履修規程第 14 条）

選択した履修コースの変更を希望する場合は、所属する学群の学群長の許可が必要となります。手続き方法や時期等については、後述するクラス担当教員等に確認してください。

入学 ▶ 履修登録 ▶ 授業・授業評価 ▶ 試験 ▶ 成績評価・単位修得 ▶ 進級（学類決定・コース選択） ▶ 卒業研究 ▶ 卒業・学位授与

12 卒業認定・学位授与について（学則 41 条）

修業年限を満たし、各学群で定める卒業要件を満たした学生は、卒業が認定され、学位が授与されます。各学類を修了した者に授与される学位は下表のとおりです。

	学類	学位
看護学群	看護学類	学士（看護学）
事業構想学群	事業プランニング学類	学士（事業プランニング学）
	地域創生学類	学士（地域創生学）
	価値創造デザイン学類	学士（価値創造デザイン学）
食産業学群	食資源開発学類及びフードマネジメント学類	学士（食産業学）

13 学修支援について

学修や進路上、学生生活の悩みや不安などがある場合、所属するクラスを担当する教職員が窓口となって相談を受け付けます。

また、学生がクラス担当教員以外の教員の研究室を訪れ、授業内容等について気軽に相談できる時間として「オフィスアワー」を設けています。詳細については学内ウェブサイトの「学生便覧」を参照してください。

なお、非常勤講師への学修上の相談や質問は、非常勤講師の来学時に行ってください。

（1）教員へ相談したいとき

オフィスアワーの対応時間等については学内ウェブサイトに掲載されています。ただし、業務上、各教員の都合がつかない場合もありますので、各教員へメール等で事前連絡の上、相談することを推奨しています。

（2）職員へ相談したいとき

事務部の窓口が利用できる時間帯は、平日８：３０～１７：５０です。事務職員への相談や書類等の提出は、事務部窓口が利用できる時間帯で行ってください。

（3）学生相談室、保健室について

・保健室：大学構内でのケガや体調不良については、保健室で対応することが可能です。
・学生相談室：カウンセラーが常駐し、対人関係、こころの健康、生活全般、学業・進路など、学生生活における困りごとをはじめ、様々な相談ができる場所です。費用は無料で、プライバシーは厳守されます。
・利用時間はキャンパス毎に異なりますので、学内ウェブサイトの「学生便覧」で確認してください。

14 その他

（1）大学からの連絡

学内行事、集中講義などで連絡事項が発生した場合や、学生生活に関する重要なお知らせは、学内メールで周知する場合がありますので、学内メールを確認してください。

また、学内メールの他、大和キャンパスにおいては事務部前の掲示板、太白キャンパスにおいては講義棟１階の掲示版、学務管理システム（学内の場合 https://p.campus.myu.ac.jp/portal/ 学外の場合 https://vpn.myu.ac.jp/portal/ からログイン）等を通じて連絡を行うことがあります。登下校時には、掲示板等を確認してください。

（2）気象状況や自然災害等による休講・試験の延期

気象状況や自然災害等により学生及び教職員の通学・通勤が困難な場合や困難になると想定される場合は、安全確保のため休講及び試験の延期措置を行います。

時間帯	気象状況	休校
午前7時の時点	仙台市又は大和町に大雨・洪水・暴風・大雪・暴風雪のいずれかの「警報」が発令され、スチューデントサービスセンター長及び副センター長により休講及び試験の延期措置が必要と判断した場合。（JR在来線〈東北本線・常磐線・仙山線・仙石線〉の仙台駅を含む区間の運休又は運転見合わせや仙台市内小中高校の休校を目安として判断します。）	午前の授業（1・2限）『休講』
午前10時の時点		午後の授業（3～5限）『休講』
※実習、インターンシップ等学外で実施される科目の実施有無については、当該基準に準じ各担当教員（看護学実習の場合は学群長又は実習ワーキンググループ長）の判断によります。		

上記のほか、学長及びスチューデントサービスセンター長が学生の安全確保のため必要があると判断した場合学外ウェブサイト、メールなどによって周知されます。

（3）学生保険について

学内外で教育研究活動中、実習中、通学途中、サークル活動中などに発生した傷害事故（自分自身のケガ）・賠償事故（他人にケガをさせたり、他人の物を壊したりした場合の補償）に備えるため、入学時に学生保険に加入しています。詳細は、学内ウェブサイトの「学生便覧」に記載していますので、参照してください。

（4）経済支援について

授業料の納付や、減免等申請、奨学金に係るお知らせなどは、学内ウェブサイトの「学生便覧」に記載していますので参照してください。

Ⅲ. 履修登録

ここでは、履修登録に係る手続きについて説明します。これらの内容の詳細は履修規程で定められているほか、学内ウェブサイトに記載しています。

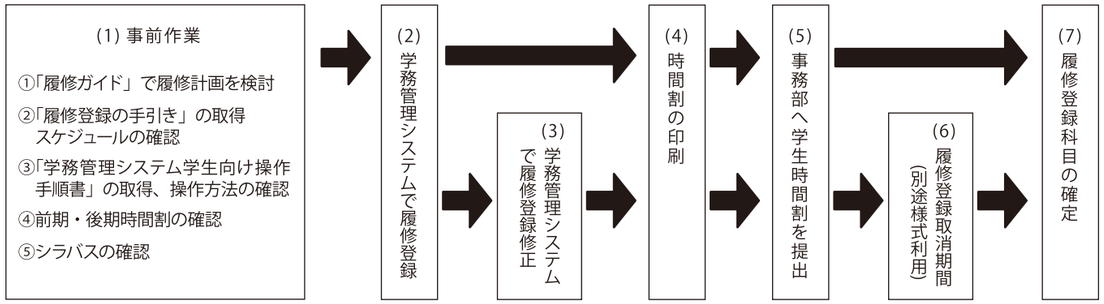
1 履修登録とは

授業に出席し、所定の単位を修得するためには、定められた期間内に履修登録を行う必要があります。計画を立て、確実に卒業要件を満たすように履修登録を行ってください。

本学では、履修登録に学務管理システムを利用するほか、履修漏れを防ぐため、事務部窓口へ提出が必要となる書類があります。詳細は、学内ウェブサイトを参照してください。

2 履修登録の手順

履修登録の手順は、下図のとおりです。



(1) 事前作業

①「履修ガイド」で履修計画を検討

履修ガイドには、各学群のカリキュラムの他、年次科目の詳細が記載されています。自分の希望する進路に合わせて、履修計画を検討してください。

②「履修登録の手引き」の取得，スケジュールの確認

学内ウェブサイトに、「履修登録の手引き」が掲載されます。履修登録に係る詳細のスケジュールなど、重要な情報が記載されていますので必ず確認してください。

③「学務管理システム学生向け操作手順書」の取得・確認

学内ウェブサイトに「学務管理システムの操作手順書」が掲載されます。基本的な操作手順が記載されていますので、確認してください。

④ 時間割の確認

学内ウェブサイトに、当該年度の前期・後期の時間割が掲載されます。同日・同じ時限に開講されている科目は同時に履修できませんので、注意してください。

⑤シラバスの確認

学務管理システムから授業科目のシラバスを確認することができます。シラバスには、授業科目の授業概要、授業計画、評価方法などが簡潔に説明されていますので参考としてください。

(2) 履修登録

定められた期間内に学務管理システムで履修登録の操作をしてください。選択された内容は、学務管理システムの「時間割」で確認することができます。また、後期に開講する科目についても前期の履修登録期間に履修登録を行う必要がありますので注意してください。

(3) 履修登録修正

履修登録の内容を修正したい場合、定められた期間内であれば、学務管理システムから登録内容を修正することができます。後期科目については、後期授業開始後に同様の修正期間を設けます。なお、学務管理システムにおいて履修登録科目のない学生については、注意喚起のため、未登録者として事務部前掲示板に掲示します。

(4) 時間割の印刷

履修登録が行われたことを学生・職員が相互に確認するため、最終的な登録結果として、事務部提出用と学生控え用に時間割を２部印刷してください。印刷したものは、後日提出となります。なお、所定の期間を過ぎてからの登録内容の追加・変更は応じられませんので、注意してください。

(5) 事務部へ学生時間割を提出

印刷した時間割を事務部窓口の所定の提出ＢＯＸに提出してください。

(6) 履修登録取消期間

定められた期間内であれば、履修登録を取り消すことができます。履修登録を行った科目は，自己都合で受講を取りやめても「不可」として評価され、ＧＰＡに反映されます。履修の意思がない場合は、定められた期間内に履修登録の取り消しを行ってください。

(7) 履修登録科目の確定

履修登録に係る所定の手順を終えると、最終的な登録内容が学務管理システムの時間割で確認できます。登録内容が窓口に提出した時間割と異なっている場合は、事務部に連絡してください。

3 履修登録上の留意点

(1) 履修登録可能な単位数の上限

本学では，履修登録できる単位数の上限を定めています。

時間帯	履修登録単位数の上限
1年次	年間49単位まで（基盤教育科目から35単位まで）
2～4年次	各年次における履修登録単位数の上限は，年間49単位まで

※ただし，以下の科目の単位数は，履修登録単位数の上限には含まれません。
・各学群の卒業要件に含まない科目
・春季休業日，夏季休業日及び冬季休業日に開講される集中講義等の科目
・他大学又は短期大学から履修を許可された科目のうち，教授会が特に必要と認めた場合

(2) 単位修得済み科目の履修登録の禁止

一度単位を修得した科目は、再度履修登録を行うことはできません。

(3) 集中講義科目の日程確認

集中講義科目を２科目以上履修する場合は、日程が重複していないかどうかを十分確認した上で履修登録してください。

(4) その他

履修登録期間中には、履修登録に係る連絡事項が伝えられますので、所定の掲示板や学務管理システム、学内メールを確認してください。

Ⅳ. 全学共通科目ほか

1 コミュニティ・プランナープログラムについて

(1) コミュニティ・プランナープログラムとは

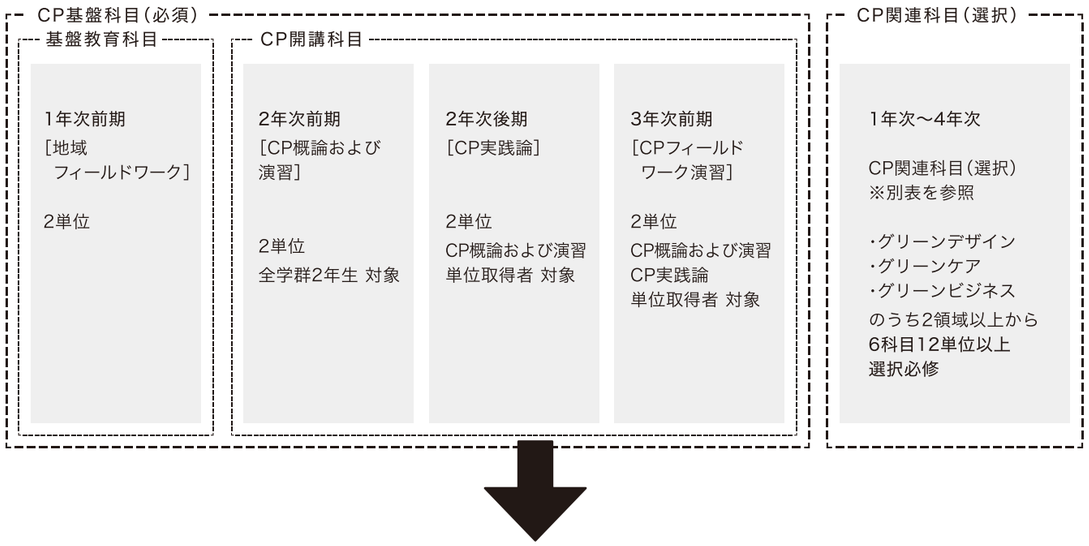
地域の歴史・文化・資源を活かしたコミュニティづくりや、地域の人々と共に課題解決ができる人材の育成を目指し、宮城大学と兵庫県立大学が連携して構築・推進している教育プログラムです。このプログラムでは、地域コミュニティの現場に触れ、自らの目で見て･聞いて･体験し、学習することで、地域の人々と共に考えながら、地域本来の良さを活かした、これからのコミュニティづくりの提案を行える技能の習得を目指しています。

(2) 単位

必修科目は、コミュニティ・プランナー（CP）基盤科目である基盤教育科目の「地域フィールドワーク」1 科目 2 単位、CP 開講科目の「CP 概論および演習」「CP 実践論」「CP フィールドワーク演習」の 3 科目 6 単位。また、選択科目として、各学群既存科目である「CP 関連科目」のうち 2 領域以上から 6 科目 12 単位以上を履修します。合計 20 単位以上を履修することで宮城大学･兵庫県立大学「コミュニティ･プランナー育成プログラム」の運営に関する覚書に基づき、卒業時に『コミュニティ・プランナー アソシエイト』の称号が授与されます。

〈 CP プログラム科目構成 〉

CP 基盤科目（4 科目 8 単位）+ CP 関連科目（6 科目 12 単位）= 計 20 単位以上



『コミュニティ･プランナー アソシエイト』称号 授与

<CP 概論および演習>
地域社会で活躍する専門家と連携したグループ演習により、現地調査の方法、ワークショップの運営、意見のまとめ方など、フィールドワークの基本的技能の習得を目指します。

<CP 実践論>
実践者・専門家の講義やフィールドワークを通じ、事例把握による疑似体験により、CP としての知識・理解を深めます。

<CP フィールドワーク演習>
コミュニティ再生の実践的経験を通して、CP としての職能を理解しながら様々なステークホルダーとの協働手法や地域課題解決手法の習得を目指します。

(3) プログラムの考え方および特色

①GREENの視点

持続可能（サスティナブル）な地域コミュニティを構築し、維持してゆくためには、緑ある環境をベースにして、人、植物、動物、すべての生命（いのち）がつながり、関わり合うことが必要です。本プログラムでは、このような、すべての生命（いのち）のつながり、関わりを意味するものを「GREEN」と呼びます。「GREEN」は花や樹木などの植物だけでなく、「みどり色」の持つイメージそのものを指し、光り輝く緑からイメージできる生命（いのち）の輝き、人びとが集い、笑顔があふれる地域社会など、持続可能な地域社会を支える新しい視点です。

②ステークホルダーと連携したフィールドワーク

カリキュラムは主に「講義+フィールドワーク（実践）」の形式を取り、フィールドでの実践を通して講義での学びを深めていきます。また、第一線で活躍する専門家と共に学ぶことのできる実践的な科目構成となっています。自治体や企業・NPO 等の地域社会のステークホルダーと連携したフィールドワークを取り入れることで、コミュニティから求められている企画力やファシリテーション能力、プレゼンテーションや実行力といった社会に貢献できる能力を育成します。

(4) 履修方法および履修手続等

①履修方法

通常の履修登録と同様に学務管理システムで行ってください。履修登録の際は、別冊で配布される「履修登録の手引き」をよく確認してください。

②履修登録単位数の上限と卒業要件単位への参入

履修登録単位数には上限があります。P19「3(1) 履修登録可能な単位数の上限」を確認してください。なお、卒業要件単位に入らない科目は、履修登録単位の上限からも除外されます。

看護学群は、基盤教育科目「地域フィールドワーク」のみ卒業要件単位として認められ、前期の履修登録単位数に含まれます。

事業構想学群および食産業学群は、基盤教育科目「地域フィールドワーク」と「CP 概論および演習」が卒業要件単位として認められ、前期の履修登録単位数に含まれます。「CP 実践論」「CP フィールドワーク演習」は卒業要件単位には入りません（地域創成学類を除く）。

③CP 関連科目

CP 関連科目については、各学群学類で開講している既設科目の履修となります。他学群にて開講している科目を履修する場合には、学群学類毎に履修要件が異なります。詳しくは「宮城大学他学群・他学類履修及び他大学等履修に関する実施要綱」を確認してください。

※CP 関連科目は、各シラバス・時間割どおりに開講されますので、別キャンパスの科目を履修する場合はキャンパス間の移動時間等に注意して履修登録を行ってください。

別表　CP関連科目（2領域以上、6科目12単位以上を修得）

領域	科目名	開講年次	単位数	開講学類	科目名	開講年次	単位数	開講学類
グリーンケア	人間発達学	1前	2	看護	行政学	3前	2	地域創生
	人間関係論	1後	2	看護	社会的共通資本	3前	2	地域創生
	ライフステージ看護学概論Ⅰ（看護学群の学生のみ履修可）	1後	2	看護	地理情報分析	3前	2	地域創生
	ライフステージ看護学概論Ⅱ（全学群の学生履修可）	2前	2	看護	地域交流論	3後	2	地域創生
	災害活動論	1後	2	看護	コミュニティ創造	3後	2	地域創生
	臨床心理学	1後	2	看護	地方自治	3後	2	地域創生
	地域看護学概論	2後	2	看護	地域福祉政策	4前	2	地域創生
	地域政策概論	2前	2	地域創生	栄養科学	3前	2	食資源開発
	地域調査法	2前	2	地域創生	食品の安全性管理	3後	2	食資源開発
	地域資源論	2後	2	地域創生	動物福祉論	3後	2	食資源開発
	地域社会学	2後	2	地域創生	ライフステージ栄養学	4前	2	フードマネジメント
	地域分析学	2後	2	地域創生	フードコミュニケーション	4前	2	食資源開発 フードマネジメント
	社会調査法	2後	2	地域創生				計25科目
グリーンデザイン	地域社会・産業とデザイン	1後	2	地域創生 価値創造デザイン 事業プランニング	災害の科学（水）	3前	2	地域創生 価値創造デザイン
	地域政策概論	2前	2	地域創生	災害の科学（土）	3後	2	地域創生 価値創造デザイン
	地域調査法	2前	2	地域創生	地域交流論	3後	2	地域創生
	地域資源論	2後	2	地域創生	コミュニティ創造	3後	2	地域創生
	地域社会学	2後	2	地域創生	地方自治	3後	2	地域創生
	地域分析学	2後	2	地域創生	景観工学	3後	2	地域創生 価値創造デザイン
	社会調査法	2後	2	地域創生	都市計画	3後	2	地域創生 価値創造デザイン
	国土・地域計画	2後	2	地域創生 価値創造デザイン	交通計画	3後	2	地域創生 価値創造デザイン
	伝統と文化	2後	2	価値創造デザイン	地区・街区計画	4前	2	地域創生 価値創造デザイン
	行政学	3前	2	地域創生	地域環境政策	4前	2	地域創生
	社会的共通資本	3前	2	地域創生	防災計画	4前	2	地域創生
	地理情報分析	3前	2	地域創生	環境科学	2後	2	食資源開発 フードマネジメント
	風土・伝統デザイン	3前	2	価値創造デザイン	食品の安全性管理	3後	2	食資源開発
	水資源利用学	3前	2	地域創生 食資源開発	フードコミュニケーション	4前	2	食資源開発 フードマネジメント
	都市と文化	3前	2	地域創生 価値創造デザイン				計29科目
グリーンビジネス	公衆衛生学	1後	2	看護	社会起業論	4前	2	地域創生
	地域活性化とビジネス	1後	2	地域創生	食料・農業・農村政策	3前	2	食資源開発 フードマネジメント
	地域政策概論	2前	2	地域創生	植物性食材生産学Ⅱ（露地園芸）	3前	2	食資源開発
	地域調査法	2前	2	地域創生	植物性食材生産学Ⅲ（施設園芸）	3前	2	食資源開発
	地域資源論	2後	2	地域創生	畜産食品学	2･3後	2	食資源開発
	地域社会学	2後	2	地域創生	ローカルフードシステム論	3前	2	フードマネジメント
	地域分析学	2後	2	地域創生	食産業政策論	3後	2	フードマネジメント
	社会調査法	2後	2	地域創生	食品経済・政策論演習	3後	2	フードマネジメント
	行政学	3前	2	地域創生	食材生産経営学	3後	2	フードマネジメント
	社会的共通資本	3前	2	地域創生	食資源開発学	3後	2	食資源開発
	地理情報分析	3前	2	地域創生	食品マーケティング論	3後	2	食資源開発
	地域交流論	3後	2	地域創生	植物性食材生産実験実習Ⅱ	3後	2	食資源開発
	コミュニティ創造	3後	2	地域創生	付加価値動物性食材生産法	3後	2	食資源開発
	地方自治	3後	2	地域創生	食品の安全性管理	3後	2	食資源開発
	地域産業政策	4前	2	地域創生	フードコミュニケーション	4前	2	食資源開発 フードマネジメント
								計30科目

2 他学群・他学類履修，他大学等履修，入学前既修得単位の単位認定について

(1) 他学群又は他学類の履修について

他学群・他学類の授業科目の履修を希望する場合は，学長の承認を得て，60 単位を超えない範囲で単位を修得することができます。他学群・他学類として学生が申請できる授業科目は下表のとおりです。

学群	他学群・他学類の学生が申請できる授業科目の範囲
看護学群	授業形態が「講義」区分の科目
事業構想学群	科目区分「卒業研究」を除く全ての科目
食産業学群	全ての科目（ただし，科目区分「卒業研究」については，食産業学群の学生が，所属していない他学類の科目を申請できる）

(2) 単位認定に係る申請について

他学群又は他学類の授業科目の履修，他の大学又は短期大学における授業科目の履修等，大学以外の教育施設における学修，入学前の既修得単位の認定に係る申請は下表のとおりです。これらの申請が必要な場合は，事務部窓口にて，あらかじめ相談してください。

	学群	要件	履修に係る申請	単位認定に係る申請	
①	本学の他学群・他学類の授業科目を履修したいとき（他学群・他学類履修）	あらかじめ当該授業科目担当教員の確認を得ること	前期又は後期の授業科目履修登録期限前までに，承認申請を行うこと	当該単位を修得した年の翌年の前期授業科目の履修登録期限日までに，在学中修得単位の認定申請を行うこと　※1	あわせて６０単位を超えないもの
②	在学中に，他の大学又は短期大学（外国の大学・短期大学を含む），高等専門学校の専攻科等における授業科目を履修したいとき（他大学等履修）	他大学等との協議又は単位互換協定等に基づくもの	事前申請を行うこと		
③	入学する前に，大学又は短期大学において修得した単位を認定したいとき（入学前既修得単位）			入学初年度の指定された期日までに，入学前既修得単位の認定申請を行うこと※1	

※1　②、③の認定申請は、所定の申請書に加えて、以下の書類を添える必要があります。
・成績証明書（単位を修得した大学等の発行するもの）
・申請する授業科目について、単位を修得した大学等が作成した授業科目の内容、単位制度等、単位の換算認定に必要な資料

※なお、学都仙台単位互換ネットワークに関する協定に基づく授業科目に関する履修については、P26 に記載されています。

(3) 単位認定された授業科目の本学開講科目との振替について

②他大学等履修、③入学前既修得単位として単位認定された科目については、本学開講科目において単位を修得したものとして、申請・審査の上、振替えることができます。

本学開講科目への振替の可否は、学群教授会において、所属学群及び学類開講科目と、単位認定された科目の授業内容等を相互に比較し、その類似性により決定します。

ただし、看護学群において振替により卒業要件単位に算入することのできる授業科目は基盤教育のみとし、その上限を 8 単位としています。

(4) 振替できない科目の卒業要件単位数への算入について

単位認定された科目のうち、振替できない科目の卒業要件単位数への算入は下表のとおりです。なお、これらの科目について、卒業要件単位算入の認定を希望する学生は、別途申請を行う必要がありますので、事務部窓口にて、あらかじめ相談してください。

		区分（略称）	看護学群	事業構想学群	食産業学群	
留学生を除く学生	①	他学群・他学類履修	算入不可	基盤教育科目に区分し３単位まで算入可能	基盤教育科目に区分し３単位、他学類科目は専門関連科目に区分し８単位、総計８単位まで算入可能	総計 8 単位まで算入可能
	②	他大学等履修			基盤教育科目に区分し、3 単位まで算入可能	
	③	入学前既修得単位				
留学生	①	他学群・他学類履修	算入不可	算入不可	他学類科目は専門関連科目に区分し，総計８単位まで算入可能	総計 8 単位まで算入可能
	②	他大学等履修			算入不可	
	③	入学前既修得単位				

(5) 単位認定を受けた授業科目の成績表記について

単位認定された科目について，成績表記は下表のとおりです。なお，①については，本学の開講科目のため，成績及び科目担当教員名が明記されますが，②③については，単位が認定されたことのみ記載されます。

	区分		科目分類	科目区分	科目名称	単位数	成績評価の表記	科目担当教員名
①	他学群・他学類履修		他学群・他学類	履修した科目の区分	履修した科目の名称	履修した科目の単位数	秀・優 良・可	記載
② ③	他大学等履修・入学前既修得単位	うち振替可能授業科目	他大学等	振替した科目の区分	振替した科目の名称	振替した科目の単位数	認定	空欄
		うち振替できない授業科目		―	履修した他大学等の授業科目名称	原則として、履修した他大学等の配当単位数		

3 学都仙台単位互換ネットワーク　単位互換制度

(1) 学都仙台単位互換ネットワーク　単位互換制度とは

学都仙台単位互換ネットワークは、この制度に参加する大学、短期大学、高等専門学校に在籍する学生が、他の参加校の授業科目を履修し、そこで取得した単位を在籍する大学等の単位として認定する制度です。この制度による授業科目の履修には、原則として、授業料はかかりません（放送大学の授業料を除く。実習費用等が別途かかる場合があります）。履修できる授業科目（シラバス）や受講者数、その他の条件等については、受入れ大学が決定し、募集要項に定めています。

提供される科目や出願期間は大学ごとに毎年変わりますので、詳細は、学都仙台コンソーシアム単位互換ネットワークのウェブサイト（http://www.gakuto-sendai.jp/for_s/index.html）を確認してください。

(2) 単位互換制度の申請方法

①受講手続きの流れ

	募集要項・出願期間の確認	→	履修申請（出願）	→	履修許可・受講開始	→	成績連絡	→	卒業要件単位参入
前期	前年度3月		3月～4月		4月		10月		翌年度4月
後期	前年度3月		8月（大学により4月）		10月		3月		翌年度4月
手続きの流れ	各大学から提供科目・募集要項提示 ウェブサイトにて公開開始		ウェブサイトに出願期間提示 各大学の出願期間の1週間前までに単位互換願書を宮城大学事務部あてに提出		宮城大学事務部から履修の案内を受け取りしだい、授業の受講開始		宮城大学事務部より成績連絡		既修得単位認定の申請を宮城大学事務部に提出

②出願資格

宮城大学に在籍する正規学生で、申請し許可を受けた方が対象です。ただし、科目によっては、女子学生に限る場合や「○年次生以上」という受講の制限を設けている場合がありますので、科目の履修を希望する大学等の募集要項を確認してください。

なお、相手先の大学によっては、最初の受講前に事前連絡が必要になる場合がありますので、各受入れ大学のウェブサイト、募集要項で確認してください。

③出願期間

出願期間は、前期科目及び通年科目は4月上旬、後期科目は9月中旬で、相手先の大学によって違います。希望する大学の出願締め切りの１週間前までに、宮城大学事務部へ④の願書を提出してください。なお、相手先の大学によっては、前期・後期科目ともに4月を出願期限としている場合があります。

④出願方法

履修を希望する場合は、「単位互換学生（特別聴講学生）願書」（共通様式または各校指定様式）に必要事項を記入して、宮城大学事務部へ提出してください。その他必要書類があれば窓口でお知らせします。

⑤授業の履修

出願があってから、相手先の大学で審査が行われ、受講の可否が決定します。受入校からの「受入決定通知」をもって履修決定となりますが、それ以前でも講義を聴講することは可能です。受講が決定したら宮城大学事務部よりお知らせします。

⑥成績連絡

履修した科目の成績は、宮城大学を通じてお知らせします。相手先大学から連絡があり次第、掲示やメールでお知らせしますので、宮城大学事務部窓口で受け取ってください。

⑦単位の認定及び卒業要件単位への参入

⑥で成績が通知された場合、既定の範囲内で単位の認定及び卒業要件単位に算入することができます。[詳細は、「宮城大学他学群・他学類履修及び他大学等履修に関する実施要綱」に定めていますので、学内ウェブサイトで確認して下さい。]

4 学外研修・グローバルインターンシップ

(1) 学外研修・グローバルインターンシップとは

国内･海外を問わず学外における一定期間の計画的なプログラムに参加し、一定の成果を得られた場合、全学共通科目の「学外研修」の単位を修得することができます。また、主に海外における一定期間の研修を通して、グローバル人材として必要なスキル、社会で必要なコミュニケーション能力を身につけ、一定の成果を得られた場合、全学共通科目の「グローバルインターンシップ」の単位を修得することができます。

(2) 科目の履修方法

学外研修、グローバルインターンシップの２科目とも、学内選考のうえで参加が決定します。そのため、学務管理システムでの履修登録は行わず、国際交流・留学生センター等から案内される募集手続きに従って応募します。詳細は国際交流・留学生センター等で配布する募集要項を確認してください。なお、看護学群は実習期間により参加できる日程が限られる場合がありますので、実習日程を確認の上で応募してください。

メモ欄：

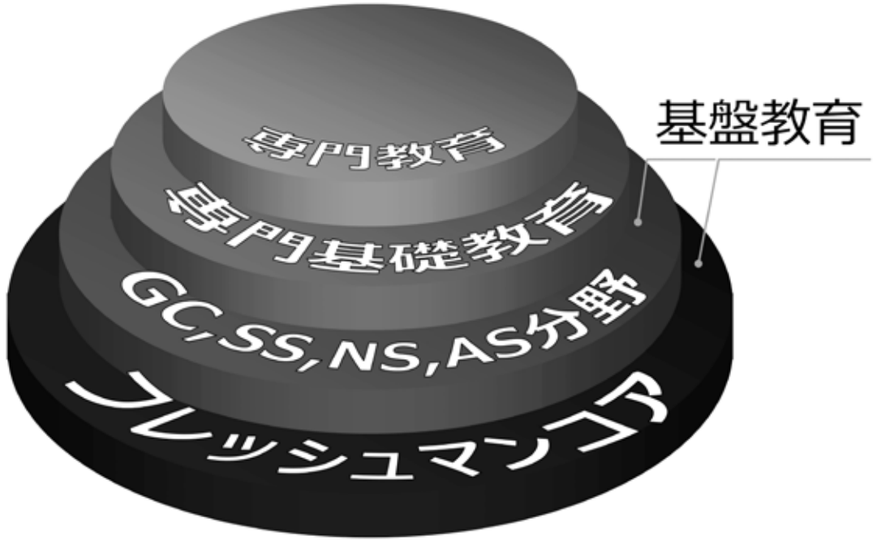
I 宮城大学カリキュラムの全体像
II 総論
III 履修登録
IV 全学科共通科目ほか
V 基盤教育

メモ欄：

Ⅴ. 基盤教育

皆さんは大学での学びをどのようにお考えでしょうか。これまでの皆さんの学びの方法は、文法であれ、法則であれ, 情報活用のスキルであれ、あるいは歴史・文化・社会についての知識であれ, 教えられたことを覚える、といったものではなかったでしょうか。しかし、大学での学びは、教えられたことを覚えるだけでは十分とはいえません。大学での学びの中心は、教えられたことを踏まえながらも、自ら考え、課題を見出し、その解決策を探求していくことにあります。そのためには、自ら調べ、考えを深めることのみならず、他者と意見を交わし、自らとは異なる見解や文化のなかに問題解決の可能性を探ることも必要となります。学問に触れ、地域とかかわり、他者と交わるなかで、身近な地域に、多様な社会に、そして広い世界のなかに自らを位置付けることによって、将来の展望を持つことができるようになる。宮城大学は、このような考えのもと、大学での学びが生涯の学びの糧となることを願っています。

その意味では、皆さんの大学での学びが充実したものとなることが肝要です。そして、そのための最初の働きかけが宮城大学の基盤教育です。基盤教育では、３つの力（知）を養います。１つ目は、基礎的な言語・数量・情報を使いこなす力（技法知）。２つ目は、学知を理解し、検討し、新たな視点を見出す力（学問知）。そして３つ目は、自己と他者への理解を深め, 他者と協働しながら目標を達成する力（実践知）。これら３つの力（知）の修得を通じて、人間力の向上、生涯にわたって学び続ける力の涵養、そして明日の姿を見通す力の育成を目指します。



上の図に示すように、基盤教育は，フレッシュマンコア（FC）、グローバルコミュニケーション分野（GC）、ソーシャルサイエンス分野（SS）、ナチュラルサイエンス分野（NS）、そしてアートサイエンス分野（AS）の5つの領域から構成されています。各領域の概容については、ページをあらためて、ご紹介いたします。

基盤教育の教育目標

	ディプロマポリシー	カリキュラムポリシー
		宮城大学共通の教育基盤として、人間力を高めるとともに、広く深く学び続ける力を養成し、将来にわたって明日の姿を見通す力を身につけるための技法知・学問知・実践知を修得するための教育課程を編成する。その中核として、全ての学生が必ず身につけるべき力を養成するための科目群「フレッシュマンコア」を置く。
1 知識・技術	諸領域の学問分野における基本的知識を持ち、各学問分野に特有の考え方を理解し、その考え方を様々な場面で適用できる技術を持つ。	諸領域の学問分野における幅広い分野の知識と技術を教授するため、学問領域を社会・歴史・文化を学ぶ「ソーシャルサイエンス」、人間と自然科学を学ぶ「ナチュラルサイエンス」、芸術を学ぶ「アートサイエンス」に分類し、それぞれの領域における基本的知識・技術を教授するための科目群を構成する。また学びの全体を俯瞰するための科目を置く（看護学群を除く）。 学生が修得した知識・技術を、実践的に応用できる力に結びつける効果的な教育方法を採用する。
2 思考力 判断力	物事を多面的に考えながら、科学的根拠に基づく論理的な思考と判断ができる。	自らが修得した知識・技術を基盤に、科学的根拠に基づく論理的な思考力・判断力を養成するため、「フレッシュマンコア」の中に少人数演習およびフィールドワーク等を置き、実践的な課題に取り組む教育を行う。
3 表現	自分の意見を口頭表現や文章表現によって的確に伝えることができる。	自らの意見や調査分析結果を文章や口頭で表現し、それらを伝えるコミュニケーション力を養成するため、少人数演習科目において、表現技術とコミュニケーションに関する実践的な教育を行う。 グローバルなコミュニケーション力と表現力を養成するために、「グローバルコミュニケーション」科目群を設け、世界共通語としての英語をフレッシュマンコアとして位置づけるとともに、その発展科目を置く。また、中国語、韓国語、ベトナム語を外国語科目として置く。
4 主体性	自己を社会の中に位置づけ、学びを自分自身で意味づけながら自ら学び続けることができる。	自らの将来を見据え、主体的に学ぶ能力を養成するために、「フレッシュマンコア」の中に、大学での主体的な学びを理解するための科目、自らの将来像を考えるためのキャリアデザイン科目を設ける。また、演習科目においても学びの主体性を重視した教育を実施し、自らが学びつづけるための力を養成する。
5 協働性	他者との適切なコミュニケーションのあり方を理解し、他者と協力して学ぶ活動ができる。	他者との協働性とコミュニケーション力を養成するため、「フレッシュマンコア」の中で少人数演習やフィールドワーク等の協働的な活動を取り入れた教育を実施する。

1 フレッシュマンコア

（1）フレッシュマンコア（FC）とは

宮城大学が重視する基盤教育、その中軸となる全学共通の必修科目群を「フレッシュマンコア」といいます。フレッシュマンコアは、技法知、学問知、実践知の修得に向けた基礎トレーニングの場です。そこではまず専門科目を主体的に学ぶための礎を築きます。また、少人数のグループで課題に取り組み、仲間とともに学びながら、多様な意見から集団で答えを導き出す能力を養っていきます。さらに、地域や社会の一員として自らの果たすべき役割についても考えを深めていきます。これら一連の営みを通じて、一人ひとりの生涯の学びの基盤を確かなものにしていきます。

〈 フレッシュマンコア 〉

「明日の姿を見通す力」を身につける宮城大学の基盤教育スタンダード

（2）フレッシュマンコアの基幹科目

フレッシュマンコアの中でも，以下の７科目（看護学群は４科目）を「フレッシュマンコア基幹科目」といいます。いうなれば，3つの力（知）のコアのコアに触れる機会となるでしょう。

①**スタートアップ・セミナー** ……▶ ２５人のクラス単位で、コミュニケーションやディスカッションのスキルを身につけるとともに、自分の考えをプレゼンテーションやライティングの形で表現する方法を学びます。

②**アカデミック・セミナー** ……▶ スタートアップ・セミナーでの学びを基にして、科学的に思考し説明する方法を学びます。他者と協働してアイディアを出し合いながら、自らの表現力を向上させる能力の育成を目指します。

③**社会の中で生きる** ……▶ 社会の一員として，幸福・正義・公正・人権などの観点から，社会がどのように構成されているのかを知り、自分が社会にどのように関わるべきかを，集団討議も交えて考えていきます。

④**地域フィールドワーク** ……▶ 地域を歩き，自らのミッションを問う、地域に貢献できる人材の持つべき素養として、地域（東北、宮城等）の自然・歴史・文化等を学びながら、地域の多様な人々や地域が抱える課題に目を向け、自らの「果たすべき役割」を考えていきます。

⑤**宮城大学の知の体系（事業構想学群・食産業学群のみ）**……▶ 大学での学びを概観し、宮城大学と３学群のミッション、学修内容等を理解することで、４年間の学修と卒業後の姿をイメージします。

⑥**大学での学び入門（事業構想学群・食産業学群のみ）**……▶ 大学での学び方を身につけることを目的に、学ぶことの意義を考え、また学ぶために必要な学修方法について学びます。

⑦**キャリアデザインⅠ（事業構想学群・食産業学群のみ）**……▶ 学類選択や卒業後の進路を見据えて、「自分は何者で、これからどのような道を進んでいきたいのか」を考えます。過去の自分に肯定的な意味付けをし、未来の自分をデザインする方法を学びます。

フレッシュマンコアでは P33 に記載されている基幹科目のほかにも，必修科目として次の科目を配置しています。

・English Reading Skills Ⅰ／English Reading Skills Ⅱ／English for Academic Purposes Ⅰ
English Self-Expression Ⅰ／English Self-Expression Ⅱ／English Self-Expression Ⅲ ……▶世界中の社会や技術発展について書かれたテキストやオンライン教材を使用し，読解の能力を強化する一方，スピーキングやライティングを通し，表現方法を学修します。また，英語の教材を通して，様々な視点や異文化理解を身に付けることを目指します。

・データサイエンス入門 ……▶身近な標本データに着目し，その種類の違いを理解し，適した処理法やグラフ・表による整理・表現法を，PC（パーソナルコンピュータ）を用いて学びます。またこれらを通じて、標本抽出や実験等の意義と必要性を理解し，標本から母集団の特徴を推測する基礎的な考え方を修得します。

・情報化社会と技術 ……▶コンピュータおよび情報ネットワークの基礎的な構造と特徴を理解し，適切に利活用する方法を身に付けます。特に，情報収集や情報分析などを行いながら，情報を活用しコミュニケーションを適切に図る技術を修得します。

2 基盤教育における４つの科目分野

基盤教育では「フレッシュマンコア」のほかに、以下の4つの科目分野を設けています。ここでは、各学類の専門科目をよりよく理解できるよう、3つの力（知）に磨きをかけます。

（1）グローバルコミュニケーション分野（GC）

English for Academic Purposes Ⅱ	Extensive Listening	Practical English
中国語 Ⅰ	中国語 Ⅱ	
韓国語 Ⅰ	韓国語 Ⅱ	
ベトナム語 Ⅰ	ベトナム語 Ⅱ	
Global Studies Ⅰ	Global Studies Ⅱ	
Intercultural Communication		

（2）ソーシャルサイエンス分野（SS）

日本の歴史と文化	世界の歴史と文化	東北の歴史と文化
現代社会と哲学	人と宗教	心理学
現代社会の諸相	憲法	社会と経済

（3）ナチュラルサイエンス分野（NS）

数理科学	生命科学	環境科学入門
地球と宇宙	数学概論	物理概論
化学概論	生物概論	基礎統計学

（4）アートサイエンス分野（AS）

音楽	美術	健康科学
スポーツ科学	スポーツ実技	体を動かす楽しみ
アートサイエンス概論（※）	総合芸術（※）	

また、上記（1）～（4）以外にも「全学自由ゼミ」（※）を開講します。
※「アートサイエンス概論」「総合芸術」「全学自由ゼミ」は看護学群では開講しない科目なので、看護学群の学生が履修を希望する場合は、他学群・他学類履修制度により履修してください。

3 ―留学生対象科目

留学生の皆さんは、下表の基盤教育科目が必修となります。
また、記載されている英語科目（*）の中から４年間で２単位分の授業を取る必要があります。

科目	看護学群	事業構想学群	食産業学群
宮城大学の知の体系	開講なし	○	○
大学での学び入門	開講なし	○	○
社会の中で生きる	○	○	○
キャリアデザインⅠ	開講なし	○	○
スタートアップ・セミナー	○	○	○
アカデミック・セミナー	○	○	○
地域フィールドワーク	○	○	○
情報化社会と技術	○	○	○
データサイエンス入門	○	○	○
＊ English Reading SkillsⅠ	６科目から２単位（２科目）以上選択	６科目から２単位（２科目）以上選択	６科目から２単位（２科目）以上選択
＊ English Self-ExpressionⅠ			
＊ English Reading SkillsⅡ			
＊ English Self-ExpressionⅡ			
＊ English for Academic PurposesⅠ			
＊ English Self-ExpressionⅢ			
化学概論	選択	選択	○
生物概論	選択	選択	○
基礎統計学	選択	○	○
日本語Ⅰ	○	○	○
日本語Ⅱ	○	○	○
日本語Ⅲ	○	○	○
日本事情Ⅰ	○	○	○
日本事情Ⅱ	○	○	○

4 ―教育課程の一覧

基盤教育を含む教育課程の一覧は、「Ⅵ学群」の章の科目配当表に記載しています。学群・学類毎に開講科目、必修・選択、分野毎の卒業要件単位が異なりますので、確認のうえ計画的に履修してください。

Ⅵ. 看護学群

1 ―看護学群看護学類について

(1) カリキュラムの特徴

看護学類では、１年次に「フレッシュマンコア」を中心とした基盤教育科目と、看護の基礎となる専門教育科目を学びます。２年次から３年次にかけて、講義やグループ学習、演習・実習により、専門教育科目の知識を深め、基礎的な看護の実践能力を身につけます。３年次後期には、領域別看護学実習を通して、様々な健康レベルにある対象に対応できる看護の実践能力を養います。４年次には、病院や地域をフィールドに総合実習や卒業研究に取り組み、自らの専門的知識と学際的思考をより深めます。さらに学びを深めるため、災害看護プログラムや国際看護プログラムなど目的に沿って選択します。また、保健師教育課程、養護教諭教育課程を選択し、将来目指すべき看護職像に向けて学修します。

看護学群での学び

将来目指すべき看護職像に向けて選択できる教育課程

- 保健師教育課程　※選択制
- 養護教諭教育課程　※選択制

学修目的に沿って選択できるプログラム

- 災害看護プログラム：1年後期～4年後期
- 国際看護プログラム：1年前期～4年前期

看護師教育課程

- 1年次　「フレッシュマンコア」を中心とした基盤教育科目と看護の基礎を学ぶ
- 2年次~3年次前期　専門教育科目の知識を深め，基礎的な看護の実践能力を身につける
- 3年次後期　領域別看護学実習を通して，様々な健康レベルにある対象に対応できる看護の実践能力を養う
- 4年次　総合実習や卒業研究に取り組み，自らの専門的知識と学際的思考をより深める

↓

■看護師国家試験受験資格取得

保健師教育課程	養護教諭教育課程
■保健師国家試験受験資格取得	■養護教諭一種免許状取得

↓

看護学類ディプロマ・ポリシーへの到達

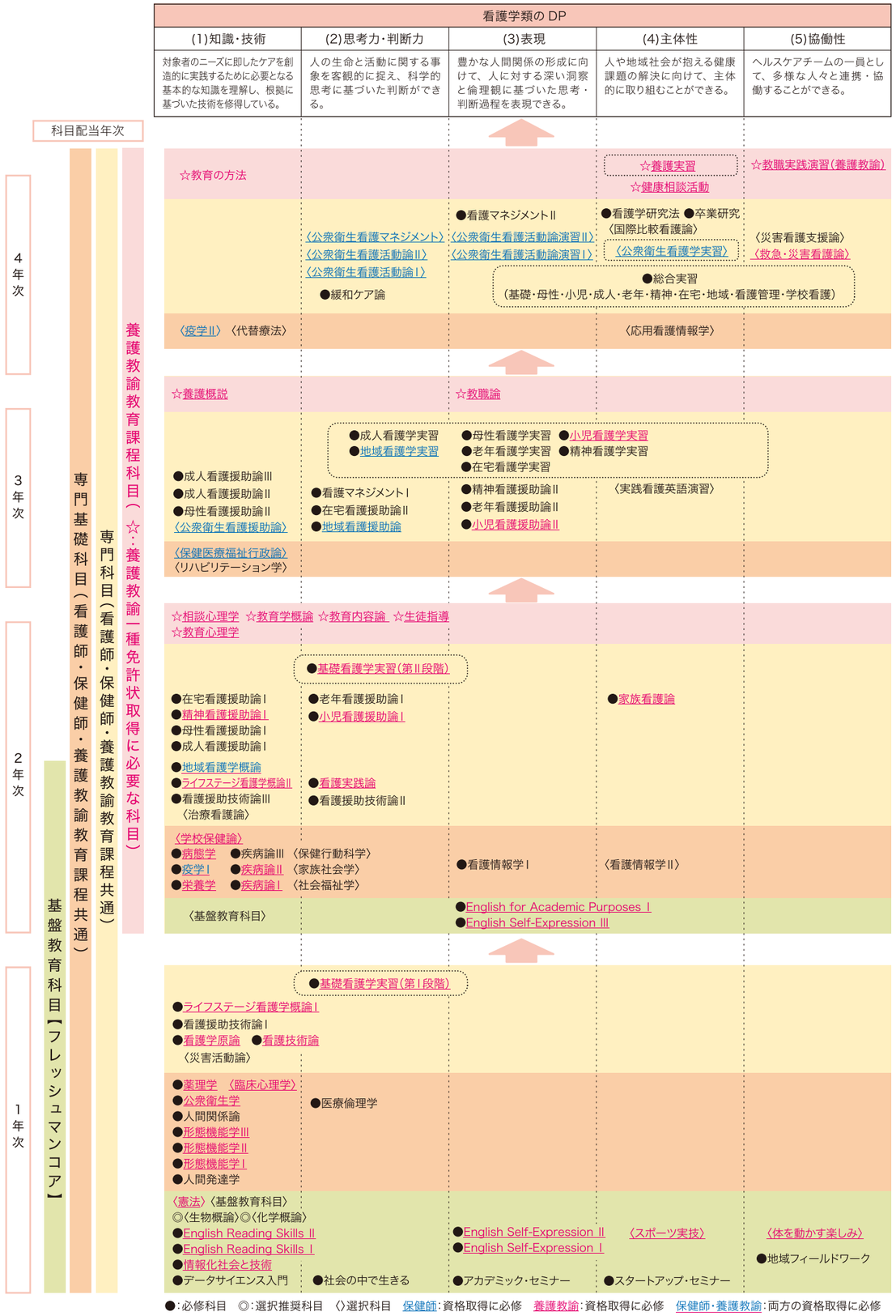
↓

卒 業

（2）看護学群の教育目標

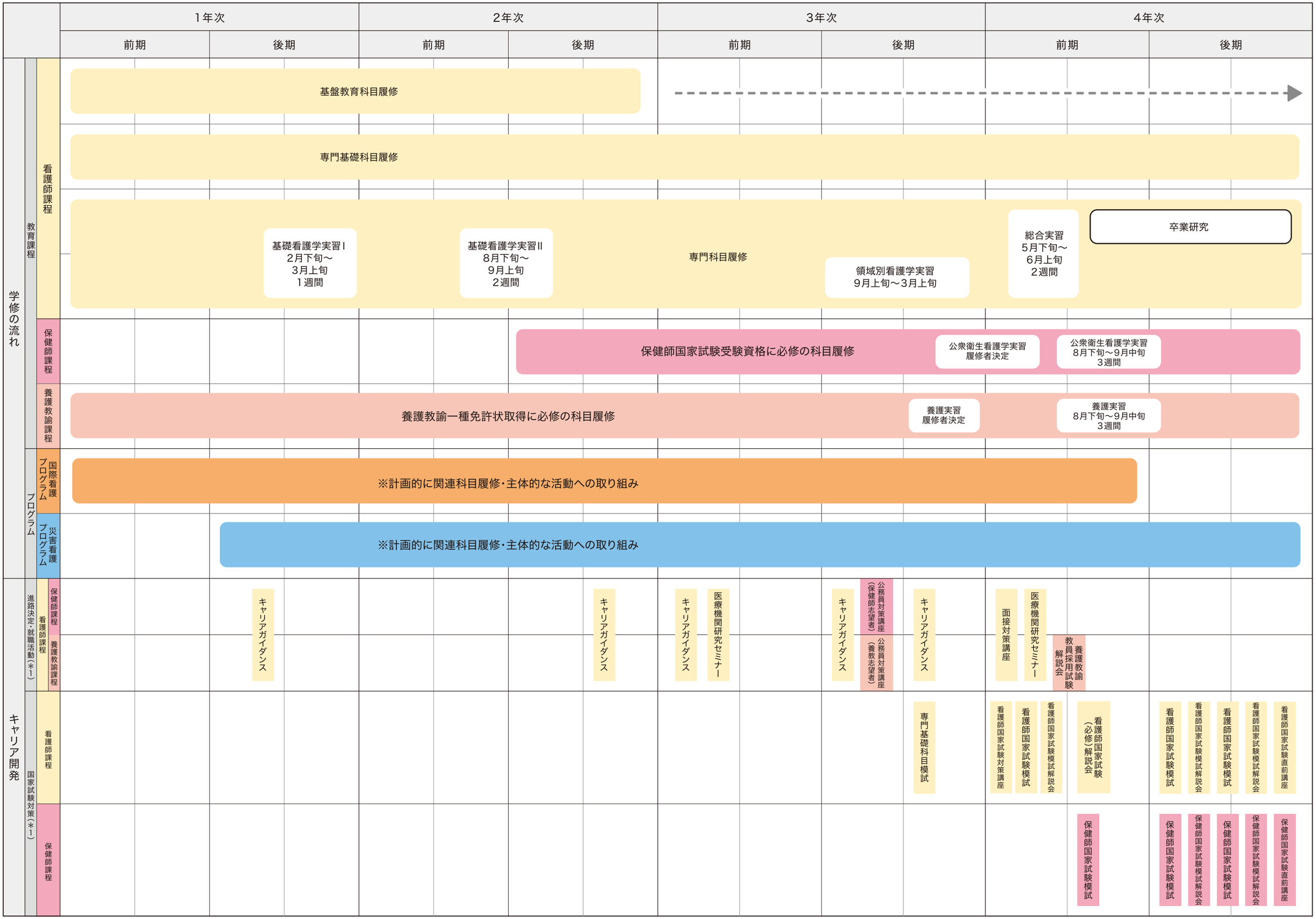
	ディプロマポリシー	カリキュラムポリシー
学群共通	看護学群では、以下の要件を満たした学生に学士（看護学）の学位を授与する。	看護学群看護学類では、「基盤教育科目」と並行して、看護学の基盤となる知識・技術を身につける「専門基礎科目」と看護学の専門性を深め、拡げる「専門科目」を学年進行に沿って体系的に配置する。看護専門職としての共通基盤を形成する看護師教育課程と共に、看護学の専門性を拡げる保健師教育課程ならびに養護教諭教育課程を置く。
1 知識・技術	対象者のニーズに即したケアを創造的に実践するために必要となる基本的な知識を理解し、根拠に基づいた技術を修得している。	基盤教育科目での学修に基づき、看護学の基盤となる関連科学や看護の各専門分野における知識と技術を身につける科目を配置し、実習室での演習や見学実習等を取り入れた実践的な教育を行う。 専門基礎科目として、看護の対象者である人の心身の発達過程や人体の構造・機能について学ぶ科目、人々の健康を守る上で必要となるさまざまな病気の成り立ちや症状・病変の特徴と治療や回復過程および、疾病の予防と健康の維持・増進について学ぶ科目を置く。 専門科目として、看護学の基礎となる知識と概念、看護が行われる場や看護を提供するシステム等について学ぶ科目や、対象者のニーズを充足する上で必要となる基本的な援助技術を身につける科目、さらにさまざまな発達段階や健康レベルにある対象者のニーズを把握し、科学的思考に基づく判断と根拠に基づいた援助技術を身につける科目を置く。
2 思考力・判断力	人の生命と活動に関する事象を客観的に捉え、科学的思考に基づいた判断ができる。	講義科目と演習科目ならびに実習科目を連動させ、人々の健康に関わる課題を科学的思考過程を経て明確化し、課題解決につなげる教育を行う。 専門基礎科目として、医療における倫理的思考、情報の収集や分析、伝達等に関係する基本的な性質や特徴を理解し、問題解決手法の基礎等について学ぶ科目を置く。 専門科目として、さまざまな発達段階や健康レベルにある対象者のニーズを把握し、科学的思考による判断と根拠に基づいた技術を通して、ニーズに即したケアを展開する基礎的能力を身につける科目を置く。
3 表現	豊かな人間関係の形成に向けて、人に対する深い洞察と倫理観に基づいた思考・判断過程を表現できる。	グループ学習を取り入れ、ディスカッションや実習室での演習、実演、実習等を通して人との関係づくりについて体験的に学び合う教育を行う。 専門基礎科目として、看護の対象となる人と良好な関係性を築きながら看護を実践する上で必要な倫理観や洞察力、コミュニケーション能力等を養う科目を置く。 専門科目として、個人や家族、集団と関わり、援助を実践する過程において必要となる基本的なアプローチの方法や、振り返りを通して自らの援助技術を高める方法等について学ぶ科目を置く。
4 主体性	人や地域社会が抱える健康課題の解決に向けて、主体的に取り組むことができる。	看護専門職を目指す上で基盤となる科目とともに、幅広い視野から看護を学ぶ科目を配置する。学修過程を振り返る機会を通して、看護専門職として目指す方向性の選択を支援する教育を行う。最終年次においては、個々の学生が関心を持った看護専門領域や課題を選択して実習や研究に取り組み、看護専門職として主体的に学び続けるための基本的態度を養う教育を行う。 専門科目として、人や地域社会が抱える健康課題の解決に向けた看護を主体的に展開する総合的実践力を身につけるための科目や、看護現象を科学的に分析し、看護実践の向上を目指す研究的態度を身につけるための科目を置く。
5 協働性	ヘルスケアチームの一員として、多様な人々と連携・協働することができる。	講義により基礎的な知識や態度を身につけ、演習や実習での多様な人々とのコミュニケーションや関わりを通して、看護専門職として、人や地域社会が抱える健康課題を解決するための基本的な態度を養う教育を行う。 専門科目として、地域のケアシステム、関係職種による連携・協働、社会資源の活用を通して、地域療養を支援する実践能力を身につける科目や、質の高い看護を組織的に提供するためのマネジメントやチーム医療における看護専門職の役割、医療者間の協働とコミュニケーションについて学ぶ科目を置く。

（3）看護学類のカリキュラムマップ



●：必修科目　◎：選択推奨科目　〈〉選択科目　保健師：資格取得に必修　養護教諭：資格取得に必修　保健師・養護教諭：両方の資格取得に必修

（4）看護学群の４年間の学びの流れ



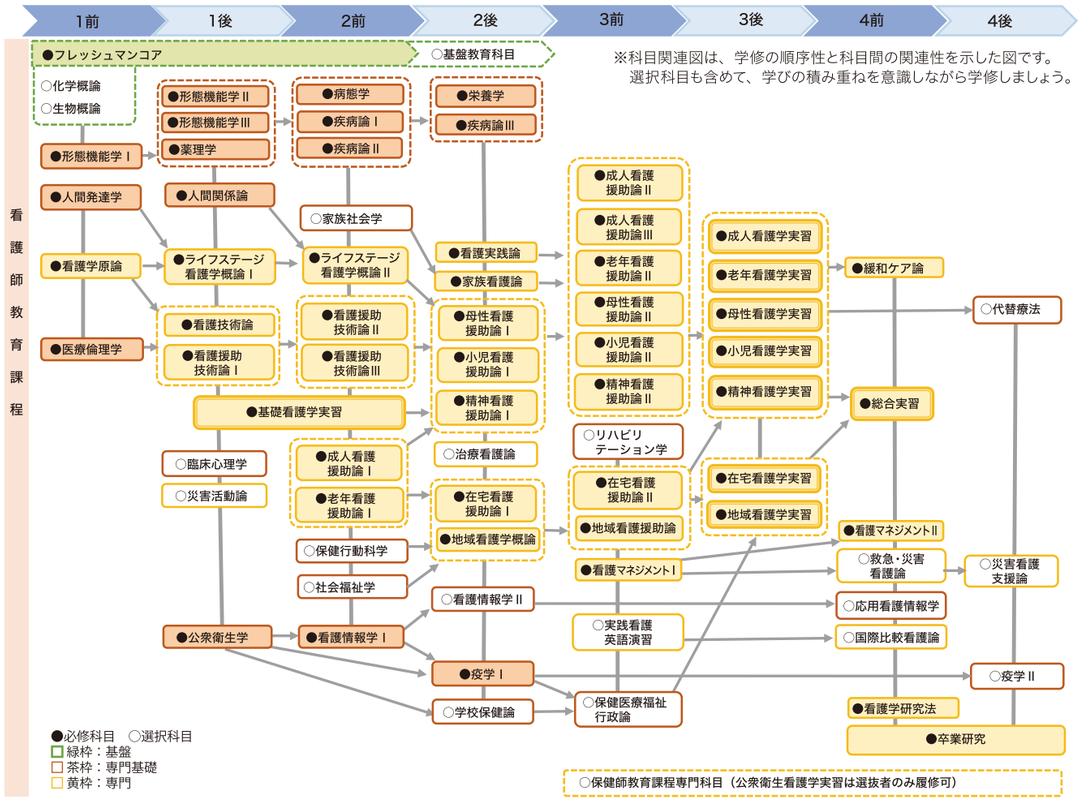
＊1：その年によって、変更になる場合もあります。

（5）看護学類科目関連図

科目関連図は、学修の順序性と科目間の関連性を示した図です。矢印が学修の順序性を示し、縦の線が科目間の関連を示します。看護学類の専門基礎科目と専門科目は、すべて関連しています。各自が選択する教育課程に応じて、学修目的に合わせて選択科目を履修します。

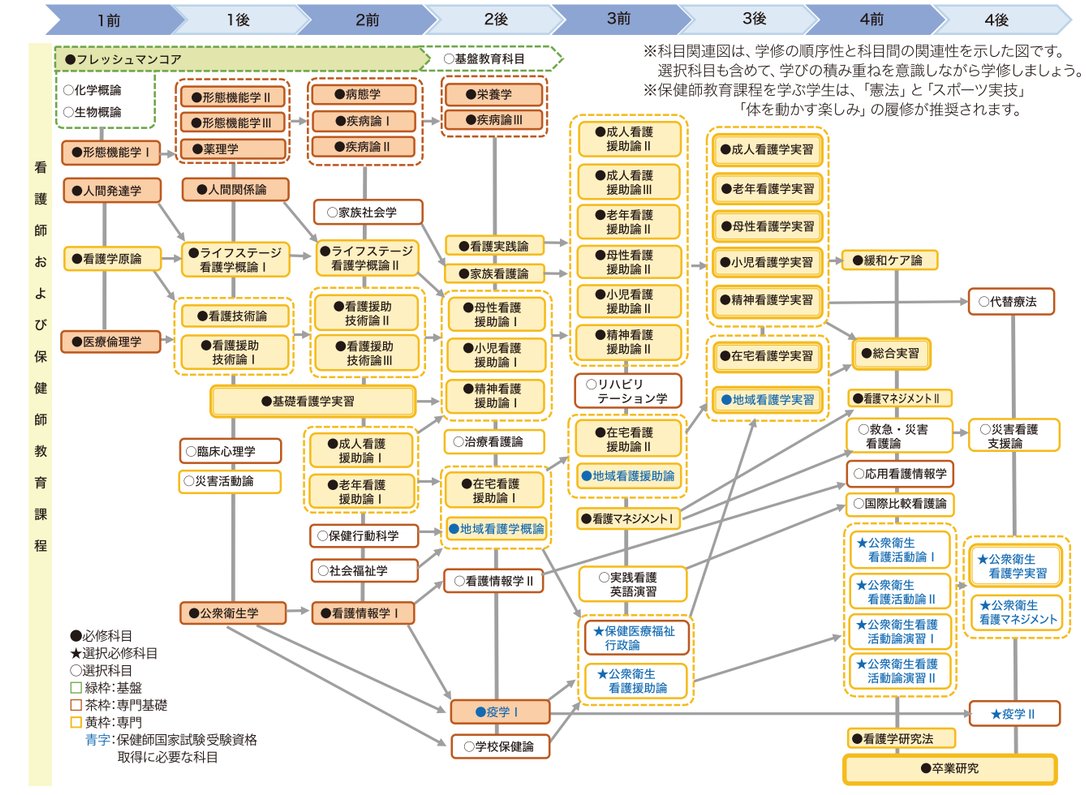
それぞれの開講時期に学修する科目を関連づけて、学びの積み重ねを意識しながら学修しましょう。

①看護学類科目関連図（看護師教育課程）

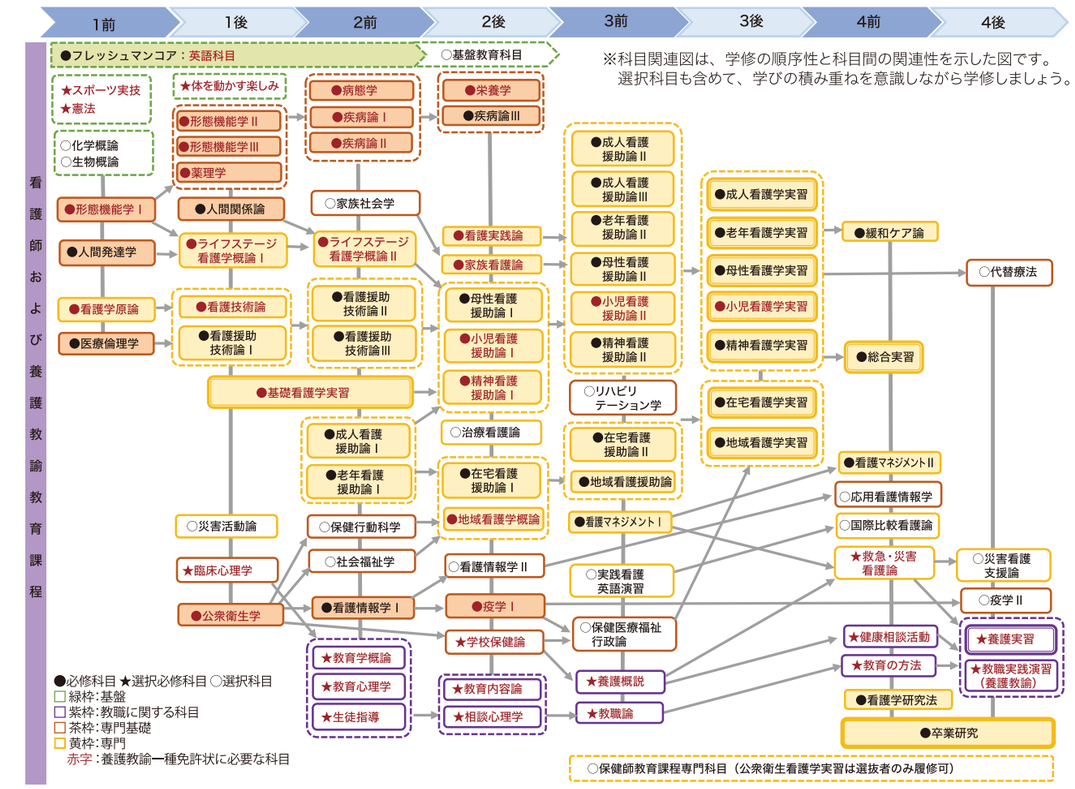


○保健師教育課程専門科目（公衆衛生看護学実習は選抜者のみ履修可）

②看護学類科目関連図（保健師教育課程）



③看護学類科目関連図（養護教諭教育課程）



2 看護学類の科目配当

（1）看護師教育課程科目配当表

【凡例】
●：必修科目　◎：推奨科目　国：国際看護プログラム関連科目　国◎：国際看護プログラム選択推奨科目　災：災害看護プログラム関連科目
FC：フレッシュマンコア　GC：グローバルコミュニケーション　SS：ソーシャルサイエンス　NS：ナチュラルサイエンス　AS：アートサイエンス

科目区分			1年次 前期 履修	1年次 前期 科目名	1年次 前期 単位	1年次 後期 履修	1年次 後期 科目名	1年次 後期 単位	2年次 前期 履修	2年次 前期 科目名	2年次 前期 単位	2年次 後期 履修	2年次 後期 科目名	2年次 後期 単位	3年次 前期 履修	3年次 前期 科目名	3年次 前期 単位	3年次 後期 履修	3年次 後期 科目名	3年次 後期 単位	4年次 前期 履修	4年次 前期 科目名	4年次 前期 単位	4年次 後期 履修	4年次 後期 科目名	4年次 後期 単位	卒業要件
基盤教育科目	FC	必修	●	社会の中で生きる	1																					
			●	スタートアップ・セミナー	2	●	アカデミック・セミナー	2		留学生は11単位必修																
			●	地域フィールドワーク	2																					
			●	データサイエンス入門	2	●	情報化社会と技術	2																		
			●国	English Reading Skills Ⅰ	1	●国	English Reading Skills Ⅱ	1	●国	English for Academic Purposes Ⅰ	1															
			●国	English Self-Expression Ⅰ	1	●国	English Self-Expression Ⅱ	1	●国	Engish Self-Expression Ⅲ	1															
	GC	選択	国	Intercultural Communication	2								English for Academic Purposes Ⅱ	1												
				Global Studies Ⅰ	2		Global Studies Ⅱ	2		Practical English	1		Extensive Listening	1												
				中国語Ⅰ	1		中国語Ⅱ	1																		
				韓国語Ⅰ	1		韓国語Ⅱ	1																		
				ベトナム語Ⅰ	1		ベトナム語Ⅱ	1																		
	SS			日本の歴史と文化	2		世界の歴史と文化	2																		
				現代社会と哲学	2		東北の歴史と文化	2																		
				人と宗教	2		現代社会の諸相	2																		
				心理学	2		憲法	2																		
							社会と経済	2																		
	NS			数理科学	2		環境科学入門	2																		
				生命科学	2		地球と宇宙	2																		
				数学概論	2		基礎統計学	2																		
				物理概論	2																					
			◎	化学概論	2																					
			◎	生物概論	2																					
	AS			音楽	2		美術	2																		
				健康科学	2																					
				スポーツ科学	1																					
				スポーツ実技	1		体を動かす楽しみ	1																		
	留学生			日本語Ⅰ	1		日本語Ⅱ	1		日本語Ⅲ	1		日本語Ⅳ	1		留学生は日本語Ⅳ以外必修										
				日本事情Ⅰ	2		日本事情Ⅱ	2																		
全学共通科目				産学連携講座Ⅰ	1					コミュニティ・プランナー概論及び演習	2		コミュニティ・プランナー実践論	2		コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習	2									
				産学連携講座Ⅱ	1				国◎	グローバルインターンシップ	2	国◎	学外研修	2												
専門教育科目	専門基礎科目	必修	●	人間発達学	2	●	人間関係論	2	●	病態学	2	●	栄養学	2												
			●	医療倫理学	2	●	形態機能学Ⅱ	1	●	疾病論Ⅰ	1	●	疫学Ⅰ	2												
			●	形態機能学Ⅰ	1	●	形態機能学Ⅲ	1	●	疾病論Ⅱ	1	●	疾病論Ⅲ	1												
						●	薬理学	2	●	看護情報学Ⅰ	1															
						●	公衆衛生学	2																		
		選択		各自の学修目的・目標に合わせて履修			臨床心理学	2		保健行動科学	2														
										家族社会学	2		学校保健論	2												
										社会福祉学	2					保健医療福祉行政論	2									
													看護情報学Ⅱ	1								応用看護情報学	1		疫学Ⅱ	2
																リハビリテーション学	2								代替療法	2
	専門科目	必修	●	看護学原論	2	●	ライフステージ看護学概論Ⅰ	2	●	ライフステージ看護学概論Ⅱ	2	●	看護実践論	2	●	母性看護援助論Ⅱ	2	●	母性看護学実習	2	●	看護学研究法	2			
						●	看護技術論	2	●	看護援助技術論Ⅱ	2	●	地域看護学概論	2	●	小児看護援助論Ⅱ	2	●	小児看護学実習	2	●	看護マネジメントⅡ	2			
						●	看護援助技術論Ⅰ	1	●	看護援助技術論Ⅲ	1	●	家族看護論	2	●	成人看護援助論Ⅱ	2	●	成人看護学実習	6	●	緩和ケア論	2			
									●	成人看護援助論Ⅰ	2	●	母性看護援助論Ⅰ	2	●	成人看護援助論Ⅲ	2	●	老年看護学実習	3	●	総合実習	2			
									●	老年看護援助論Ⅰ	2	●	小児看護援助論Ⅰ	2	●	老年看護援助論Ⅱ	2	●	精神看護学実習	2	●	卒業研究	2			
						●	基礎看護学実習	3				●	精神看護援助論Ⅰ	2	●	精神看護援助論Ⅱ	2	●	在宅看護学実習	1						
												●	在宅看護援助論Ⅰ	2	●	地域看護援助論	2	●	地域看護学実習	2						
															●災	看護マネジメントⅠ	2									
															●	在宅看護援助論Ⅱ	2									
		選択		深めたい専門知識・技術に合わせて履修		災	災害活動論	2					治療看護論	2	国	実践看護英語演習	1	災	救急・災害看護論	2	災	災害看護支援論	2			
																公衆衛生看護援助論	2	国	国際比較看護論	2						
																			公衆衛生看護活動論Ⅰ	2		公衆衛生看護マネジメント	2			
																			公衆衛生看護活動論Ⅱ	2		（※公衆衛生看護学実習は、保健師教育課程選択者のみ履修可）			
																			公衆衛生看護活動論演習Ⅰ	1					
																			公衆衛生看護活動論演習Ⅱ	1					
養護教諭教育課程（卒業要件外）										教育学概論	2		教育内容論	2		教職論	2					教育の方法	2			
										教育心理学	2		相談心理学	2		養護概説	2					健康相談活動	2		（※養護実習と教職実践演習（養護教諭）は養護教諭教育課程選択者のみ履修可）	
										生徒指導	2														

履修条件						卒業要件
必修単位数	基盤：15単位 専門基礎・専門：20単位		基盤：2単位 専門基礎・専門：35単位		専門：36単位	専門：10単位	118単位
選択必修単位数	基盤教育科目：8単位						8単位以上
履修単位数の上限	49単位（基盤教育科目35単位）		49単位		49単位	49単位	必要単位数：126単位以上

必修を含めて25単位以上修得

必修を含めて126単位以上修得

2 ― 看護学類の科目配当

(2) 保健師教育課程科目配当表

【凡例】
●：必修科目　◎：推奨科目　国：国際看護プログラム関連科目　国◎：国際看護プログラム選択推奨科目　災：災害看護プログラム関連科目
FC：フレッシュマンコア　GC：グローバルコミュニケーション　SS：ソーシャルサイエンス　NS：ナチュラルサイエンス　AS：アートサイエンス

科目区分			1年次 前期		1年次 後期		2年次 前期		2年次 後期		3年次 前期		3年次 後期		4年次 前期		4年次 後期		卒業要件		
			履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位			
基盤教育科目	FC	必修	●	社会の中で生きる	1																17単位修得	必修を含めて25単位以上修得	必修を含めて126単位以上修得
			●	スタートアップ・セミナー	2	●	アカデミック・セミナー	2															
			●	地域フィールドワーク	2																		
			●	データサイエンス入門	2	●	情報化社会と技術	2															
			●国	English Reading Skills Ⅰ	1	●国	English Reading Skills Ⅱ	1	●国	English for Academic Purposes Ⅰ	1												
			●国	English Self-Expression Ⅰ	1	●国	English Self-Expression Ⅱ	1	●国	Engish Self-Expression Ⅲ	1												
	GC	選択	国	Intercultural Communication	2																指定なし		
				Global Studies Ⅰ	2		Global Studies Ⅱ	2		Practical English	1		Extensive Listening	1									
				中国語Ⅰ	1		中国語Ⅱ	1															
				韓国語Ⅰ	1		韓国語Ⅱ	1															
				ベトナム語Ⅰ	1		ベトナム語Ⅱ	1															
	SS			日本の歴史と文化	2		世界の歴史と文化	2													2単位以上修得		
				現代社会と哲学	2		東北の歴史と文化	2															
				人と宗教	2		現代社会の諸相	2															
				心理学	2		憲法	2															
							社会と経済	2															
	NS			数理科学	2		環境科学入門	2													4単位以上修得		
				生命科学	2		地球と宇宙	2															
				数学概論	2		基礎統計学	2															
				物理概論	2																		
			◎	化学概論	2																		
			◎	生物概論	2																		
	AS			音楽	2		美術	2													2単位以上修得		
				健康科学	2																		
				スポーツ科学	1																		
				スポーツ実技	1		体を動かす楽しみ	1															
	留学生			日本語Ⅰ	1		日本語Ⅱ	1		日本語Ⅲ	1		日本語Ⅳ	1							留学生のみ履修可能		
				日本事情Ⅰ	2		日本事情Ⅱ	2															
全学共通科目				産学連携講座Ⅰ	1					コミュニティ・プランナー概論及び演習	2		コミュニティ・プランナー実践論	2							全学共通科目は卒業要件単位に含まない		
				産学連携講座Ⅱ	1				国◎	グローバルインターンシップ	2	国◎	学外研修	2									
専門教育科目	専門基礎科目	必修	●	人間発達学	2	●	人間関係論	2	●	病態学	2	●	栄養学	2							必修科目を含めて23単位以上修得		
			●	医療倫理学	2	●	形態機能学Ⅱ	1	●	疾病論Ⅰ	1	●保	疫学Ⅰ	2									
			●	形態機能学Ⅰ	1	●	形態機能学Ⅲ	1	●	疾病論Ⅱ	1	●	疾病論Ⅲ	1									
						●	薬理学	2	●	看護情報学Ⅰ	1												
						●	公衆衛生学	2															
		選択必修										●保	保健医療福祉行政論	2				●保	疫学Ⅱ	2			
		選択					臨床心理学	2		保健行動科学	2												
										家族社会学	2		学校保健論	2									
										社会福祉学	2												
													看護情報学Ⅱ	1			応用看護情報学	1				
													リハビリテーション学	2					代替療法	2		
	専門科目	必修	●	看護学原論	2	●	ライフステージ看護学概論Ⅰ	2	●	ライフステージ看護学概論Ⅱ	2	●	看護実践論	2	●	母性看護援助論Ⅱ	2	●	母性看護学実習	2	●	看護学研究法	2	必修科目を含めて78単位以上修得		
						●	看護技術論	2	●	看護援助技術論Ⅱ	1	●保	地域看護学概論	2	●	小児看護援助論Ⅱ	2	●	小児看護学実習	2	●	看護マネジメントⅡ	2			
						●	看護援助技術論Ⅰ	1	●	看護援助技術論Ⅲ	1	●	家族看護論	2	●	成人看護援助論Ⅱ	2	●	成人看護学実習	6	●	緩和ケア論	2			
									●	成人看護援助論Ⅰ	2	●	母性看護援助論Ⅰ	2	●	成人看護援助論Ⅲ	2	●	老年看護学実習	3	●	総合実習	2			
									●	老年看護援助論Ⅰ	2	●	小児看護援助論Ⅰ	2	●	老年看護援助論Ⅱ	2	●	精神看護学実習	2	●	卒業研究	2			
						●	基礎看護学実習	3				●	精神看護援助論Ⅰ	2	●	精神看護援助論Ⅱ	2	●	在宅看護学実習	1						
												●	在宅看護援助論Ⅰ	2	●保	地域看護援助論	2	●保	地域看護学実習	2						
															●災	看護マネジメントⅠ	2									
															●	在宅看護援助論Ⅱ	2									
		選択必修													●保	公衆衛生看護援助論	2				●保	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	●保	公衆衛生看護マネジメント	2
																					●保	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2	●保	公衆衛生看護学実習	3
																					●保	公衆衛生看護活動論演習Ⅰ	1			
																					●保	公衆衛生看護活動論演習Ⅱ	1			
		選択				災	災害活動論	2							国	実践看護英語演習	1				災	救急・災害看護論	2	災	災害看護支援論	2
																					国	国際比較看護論	2			
										治療看護論	2															
養護教諭教育課程（卒業要件外）							教育学概論	2		教育内容論	2		教職論	2		教育の方法	2		（※養護実習と教職実践演習（養護教諭）は養護教諭教育課程選択者のみ履修可）				
							教育心理学	2		相談心理学	2		養護概説	2		健康相談活動	2						
							生徒指導	2															
履修条件	必修単位数		基盤：15単位 専門基礎・専門：20単位			基盤：2単位 専門基礎・専門：35単位					専門：36単位				専門：10単位						118単位		
	選択必修単位数		基盤教育科目：8単位																		8単位以上		
											専門基礎：2単位 専門：2単位				専門基礎：2単位 専門：11単位						17単位		
	履修単位数の上限		49単位（基盤教育科目35単位）			49単位					49単位				49単位						必要単位数：143単位以上		

留学生は11単位必修

留学生は2単位以上選択必修

各自の学修目的・目標に合わせて履修

深めたい専門知識・技術に合わせて履修

時間割をもとに履修したい科目・時期を各自決定

留学生は日本語Ⅳ以外必修

2 ―看護学類の科目配当

(3) 養護教諭教育課程科目配当表

【凡例】
●：必修科目　●養：養護教諭教育課程必修科目　◎：推奨科目　国：国際看護プログラム関連科目
国◎：国際看護プログラム選択推奨科目　災：災害看護プログラム関連科目　FC：フレッシュマンコア
GC：グローバルコミュニケーション　SS：ソーシャルサイエンス　NS：ナチュラルサイエンス　AS：アートサイエンス

科目区分			1年次 前期 履修	1年次 前期 科目名	1年次 前期 単位	1年次 後期 履修	1年次 後期 科目名	1年次 後期 単位	2年次 前期 履修	2年次 前期 科目名	2年次 前期 単位	2年次 後期 履修	2年次 後期 科目名	2年次 後期 単位	3年次 前期 履修	3年次 前期 科目名	3年次 前期 単位	3年次 後期 履修	3年次 後期 科目名	3年次 後期 単位	4年次 前期 履修	4年次 前期 科目名	4年次 前期 単位	4年次 後期 履修	4年次 後期 科目名	4年次 後期 単位	卒業要件
基盤教育科目	FC	必修	●	社会の中で生きる	1																						
			●	スタートアップ・セミナー	2	●	アカデミック・セミナー	2																			
			●	地域フィールドワーク	2																						
			●	データサイエンス入門	2	●養	情報化社会と技術	2																			
			●養国	English Reading Skills Ⅰ	1	●養国	English Reading Skills Ⅱ	1	●養国	English for Academic Purposes Ⅰ	1																
			●養国	English Self-Expression Ⅰ	1	●養国	English Self-Expression Ⅱ	1	●養国	Engish Self-Expression Ⅲ	1																
		選択	国	Intercultural Communication	2													国	English for Academic Purposes Ⅱ	1							
	GC			Global Studies Ⅰ	2		Global Studies Ⅱ	2		Practical English	1		Extensive Listening	1													
				中国語 Ⅰ	1		中国語 Ⅱ	1																			
				韓国語 Ⅰ	1		韓国語 Ⅱ	1																			
				ベトナム語 Ⅰ	1		ベトナム語 Ⅱ	1																			
	SS			日本の歴史と文化	2		世界の歴史と文化	2																			
				現代社会と哲学	2		東北の歴史と文化	2																			
				人と宗教	2		現代社会の諸相	2																			
				心理学	2	●養	憲法	2																			
							社会と経済	2																			
	NS			数理科学	2		環境科学入門	2																			
				生命科学	2		地球と宇宙	2																			
				数学概論	2		基礎統計学	2																			
				物理概論	2																						
			◎	化学概論	2																						
			◎	生物概論	2																						
	AS			音楽	2		美術	2																			
				健康科学	2																						
				スポーツ科学	1																						
			●養	スポーツ実技	1	●養	体を動かす楽しみ	1																			
	留学生			日本語 Ⅰ	1		日本語 Ⅱ	1		日本語Ⅲ	1		日本語Ⅳ	1													
				日本事情 Ⅰ	2		日本事情 Ⅱ	2																			
全学共通科目				産学連携講座 Ⅰ	1					コミュニティ・プランナー概論及び演習	2		コミュニティ・プランナー実践論	2		コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習	2									
				産学連携講座 Ⅱ	1				国◎	グローバルインターンシップ	2	国◎	学外研修	2													
専門教育科目	専門基礎科目	必修	●	人間発達学	2	●	人間関係論	2	●養	病態学	2	●養	栄養学	2													
			●	医療倫理学	2	●養	形態機能学Ⅱ	1	●養	疾病論 Ⅰ	2	●養	疫学 Ⅰ	2													
			●養	形態機能学 Ⅰ	1	●養	形態機能学Ⅲ	1	●養	疾病論Ⅱ	1	●	疾病論Ⅲ	1													
						●養	薬理学	2	●	看護情報学 Ⅰ	1																
						●養	公衆衛生学	2																			
		選択必修				●養	臨床心理学	2				●養	学校保健論	2													
		選択								保健行動科学	2																
										家族社会学	2																
										社会福祉学	2					保健医療福祉行政論	2										
													看護情報学Ⅱ	1													
																リハビリテーション学	2										
	専門科目	必修	●養	看護学原論	2	●養	ライフステージ看護学概論 Ⅰ	2	●養	ライフステージ看護学概論Ⅱ	2	●養	看護実践論	2	●	母性看護援助論Ⅱ	2	●	母性看護学実習	2	●	看護学研究法	2				
						●養	看護技術論	2	●	看護援助技術論Ⅱ	1	●養	地域看護学概論	2	●養	小児看護援助論Ⅱ	2	●養	小児看護学実習	2	●	看護マネジメントⅡ	2				
						●	看護援助技術論 Ⅰ	1	●	看護援助技術論Ⅲ	1	●養	家族看護論	2	●	成人看護援助論Ⅱ	2	●	成人看護学実習	6	●	緩和ケア論	2				
									●	成人看護援助論 Ⅰ	2	●	母性看護援助論Ⅰ	2	●	成人看護援助論Ⅲ	2	●	老年看護学実習	3	●	総合実習	2				
									●	老年看護援助論 Ⅰ	2	●養	小児看護援助論Ⅰ	2	●	老年看護援助論Ⅱ	2	●	精神看護学実習	2	●	卒業研究	2				
						●養	基礎看護学実習	3	●養	精神看護援助論Ⅰ	2				●	精神看護援助論Ⅱ	2	●	在宅看護学実習	1								
												●	在宅看護援助論Ⅰ	2	●	地域看護援助論	2	●	地域看護学実習	2							
															●災	看護マネジメントⅠ	2										
															●	在宅看護援助論Ⅱ	2										
		選択必修																			●養災	救急・災害看護論	2				
		選択				災	災害活動論	2																	災	災害看護支援論	2
															国	実践看護英語演習	1	国	国際比較看護論	2						
													治療看護論	2								公衆衛生看護活動論Ⅰ	2		公衆衛生看護マネジメント	2
																公衆衛生看護援助論	2					公衆衛生看護活動論Ⅱ	2		
																						公衆衛生看護活動論演習Ⅰ	1		（※公衆衛生看護学実習は、保健師教育課程選択者のみ履修可）
																						公衆衛生看護活動論演習Ⅱ	1		
養護教諭教育課程（卒業要件外）									●養	教育学概論	2	●養	教育内容論	2	●養	教職論	2				●養	教育の方法	2	●養	養護実習	5
									●養	教育心理学	2	●養	相談心理学	2	●養	養護概説	2				●養	健康相談活動	2	●養	教職実践演習（養護教諭）	2
									●養	生徒指導	2															

履修条件		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件
必修単位数		基盤：15単位 専門基礎・専門：20単位	基盤：2単位 専門基礎・専門：35単位 卒業要件外：10単位	専門：36単位 卒業要件外：4単位	専門：10単位 卒業要件外：11単位	143単位
選択必修単位数		基盤教育科目：8単位（「憲法」・「スポーツ実技」　「からだを動かす楽しみ」含む）				8単位以上
		専門基礎：2単位	専門基礎：2単位		専門：2単位	6単位
履修単位数の上限		49単位（基盤教育科目35単位）	49単位	49単位	49単位	必要単位数：157単位以上

- 留学生は11単位必修
- 留学生は2単位以上選択必修
- 各自の学修目的・目標に合わせて履修
- 深めたい専門知識・技術に合わせて履修
- 時間割をもとに履修したい科目・時期を各自決定
- 留学生は日本語Ⅳ以外必修
- 必修を含めて25単位以上修得
- 必修を含めて126単位以上修得

卒業要件：
- 17単位修得
- 指定なし
- 2単位以上修得
- 4単位以上修得
- 2単位以上修得
- 留学生のみ履修可能
- 全学共通科目は卒業要件単位に含まない
- 必修科目を含めて23単位以上修得
- 必修科目を含めて78単位以上修得
- 25単位修得（卒業要件外）

3 卒業に必要な単位数及び卒業要件

卒業するためには４年以上在学し、最低限、次の表に示す所定の単位を修得しなければなりません。

区分		配当単位数	必修単位数	選択必修	選択	必要単位数	
基盤教育科目	フレッシュマンコア (FC)	17	17（留学生：11）	0（留学生：2）	0	17単位 （留学生:13単位以上）	25単位以上
	グローバルコミュニケーション分野 (GC)	15	0	0	0	指定なし	
	ソーシャルサイエンス分野 (SS)	18	0	0	2以上	2単位以上	
	ナチュラルサイエンス分野 (NS)	18	0	0	4以上	4単位以上	
	アートサイエンス分野 (AS)	9	0	0	2以上	2単位以上	
	留学生対象	留学生のみ８	留学生のみ７	0	0	留学生のみ ７単位以上	
全学共通科目		12	0	0	0	（卒業要件外）	
専門基礎科目		43	23	0	20	23単位以上	
専門科目		102	78	0	24	78単位以上	
養護教諭教育課程（卒業要件外）		25	0	25	0	（卒業要件外）	
合計		267	卒業要件単位数			126単位以上	

4 教育課程の特色

看護学類では、全員対象の看護師教育課程と希望により選択する保健師教育課程、養護教諭教育課程があります。看護の専門的な学びを深めるプログラムとして、災害看護プログラムと国際看護プログラムを設置し、学生の主体的な学びを通して、さまざまな場で活躍できる看護職の育成を目指しています。

(1) 基盤教育科目

詳細はⅤ基盤教育の章を確認してください。

(2) 専門教育科目

①専門基礎科目〔２３単位必修〕

専門基礎科目は、看護学の近接領域や基礎段階で履修する科目群です。
健康についての多角的な理解と、看護学の理解のために必要な関連科学の知識を養うものです。

②専門科目〔７８単位必修〕

看護学の基本または柱となる科目群で、基盤看護学（基礎看護学・看護管理学）、成熟期看護学（精神看護学・成人看護学・老年看護学）、次世代育成看護学（母性看護学・小児看護学）、広域看護学（地域看護学・在宅看護学）の４分野（９領域）から構成されています。看護学の理論的理解と実践面に関する看護技術、ライフステージ看護学概論および領域ごとの看護援助論等を配置し、看護学の基礎的知識と技術を修得するものです。さらに、看護の基本的知識を応用する能力および研究的視点を養うため、総合実習や卒業研究を配置しています。

※「災害看護プログラム」について

災害直後をはじめ災害サイクル各期において支援ができる看護の基礎的知識と技術を備え、将来、医療・行政・学校等の各分野において災害看護の一端を担える人材の育成をねらいとしたプログラムです。関連科目として指定された科目を履修し、かつ所定の単位を修得した学生には、修了証が授与されます。

学年	学期	災害看護プログラム構成科目	
1年次	後期	災害活動論（選択）	
3年次	前期	看護マネジメントⅠ(必修)	
4年次	前期	救急・災害看護論（選択）	（卒業研究（必修)）
	後期	災害看護支援論（選択）	

※「国際看護プログラム」について

国際協力の現場や国内における看護の場で、異文化の人々を理解し、看護実践及び関係者と協働できるための基盤となる基礎的能力の修得を支援するプログラムです。関連科目として指定された科目を履修し、かつ所定の単位を修得した学生には、修了証が授与されます。

国際看護プログラムの構成科目には指定されていませんが、グローバルインターンシップや学外研修も選択を推奨しています。

学年	学期	国際看護プログラム構成科目	
1年次	前期	English Reading Skills Ⅰ(必修) English Self-Expression Ⅰ(必修)	
	後期	English Reading Skills Ⅱ(必修) English Self-Expression Ⅱ(必修)	
2年次	前期	English for Academic Purposes Ⅰ(必修) English Self-Expression Ⅲ(必修) Intercultural Communication(選択)(1・2年前期)	
	後期	English for Academic Purposes Ⅱ(選択)	
3年次	前期	実践看護英語演習(選択)	
4年次	前期	国際比較看護論(選択)	(卒業研究(必修))
	後期		

5 看護師教育課程

所定の単位を修得し看護師教育課程を修了すると看護師国家試験受験資格を取得することができます。教育課程の特徴、各年次における履修科目は、「看護師教育課程科目配当表」（P44-P45）と「履修モデル」（P57-P59）を参照してください。また、看護師教育課程科目の学修の順序性や科目間の関連性については、「看護学類科目関連図（看護師教育課程）」（P42）を参照してください。

看護学群では、大学卒業時の到達状況の自己評価として「学びの振り返り」を実施しています。「学びの振り返り」は冊子体で、大学卒業時の到達目標を把握すること、自ら実際に評価して自分の学びを振り返ること、自分の到達状況と課題を認識することを目的に、実習後や各学年終了時に到達度を自己評価するとともに今後の課題を認識するために利用します。

看護学群でのキャリア開発として、1年次からのキャリアガイダンスを通し、学生自身がどのような将来を設定し、その目標に向かってどのように取り組み進めていけばよいのか、先輩や様々な看護職の方々と出会う中で学び、充実した学生生活を送れるように支援しています。また、模擬試験や解説会、特別講座等を開催し国家試験に向けた取り組みも行っています。

6 保健師教育課程

（1）保健師国家試験受験資格について

所定の単位を修得し保健師教育課程を修了すると、「保健師国家試験受験資格」を取得することができます。「保健師国家試験受験資格」の取得に当たっては、看護学群の必修科目のほか、宮城大学履修規程の別表1の「卒業要件」の欄に「保健師国家試験受験に必修」と示してある授業科目について、すべて履修し、単位を修得する必要があるので、履修漏れのないよう十分注意してください。

各年次における履修科目は、「保健師教育課程科目配当表」(46P-47P)と「履修モデル」(57P-59P)を参照してください。また、保健師教育課程科目の学修の順序性や科目間の関連性については、「看護学群科目関連図（保健師教育課程）」（43P）を参照してください。

なお、「保健師国家試験受験資格」と「養護教諭一種免許状」の両方を取得することはできません。

（2）選択科目の履修・単位修得について

「保健師国家試験受験資格」を取得するために単位修得が必要な選択科目は次のとおりです。

①専門基礎科目
- 保健医療福祉行政論（3年前期開講　2単位）
- 疫学Ⅱ(4年後期開講　2単位)

②専門科目
- 公衆衛生看護援助論（3年前期開講　2単位）
- 公衆衛生看護活動論Ⅰ(4年前期開講　2単位)
- 公衆衛生看護活動論Ⅱ(4年前期開講　2単位)
- 公衆衛生看護活動論演習Ⅰ(4年前期開講　1単位)
- 公衆衛生看護活動論演習Ⅱ(4年前期開講　1単位)
- 公衆衛生看護マネジメント（4年後期開講　2単位）
- 公衆衛生看護学実習（4年後期開講　3単位）

（3）「公衆衛生看護学実習」について

「公衆衛生看護学実習」は、4年次の8月末から9月末にかけて3週間行います。履修については、保健師国家試験受験資格を取得しようとする動機や成績等、一定の条件を必要とし、3年次の前期に希望を調査し、4年次までに履修者を選抜します。

選抜に当たっては、3年次に開講している上記科目の単位修得をしている学生が対象となります。

保健師教育課程の履修に際しては、自らの進路について十分考慮し、履修をすすめてください。

7 養護教諭教育課程

(1) 養護教諭一種免許状の取得について

所定の単位を修得し、養護教諭教育課程を修了すると、教育職員免許法に基づく「養護教諭一種免許状」を取得することができます。免許状の取得に当たっては、宮城大学履修規程の別表７「養護教諭一種免許状に係る授業科目」に掲げるすべての授業科目を履修し、単位を修得してください。

修得しなければならない単位の授業科目は、看護学群の必修科目のほか、「基盤教育科目」「専門教育科目（専門基礎科目、専門科目）」における選択科目も含まれています。また、「教職に関する科目」については全科目の単位修得が必要になります。それぞれ履修漏れのないよう十分注意してください。

各年次における履修科目は、「養護教諭教育課程科目配当表」(P48-P49)と「履修モデル」(P57-P59)を参照してください。また、養護教諭教育課程科目の学修の順序性や科目間の関連性については、「看護学群科目関連図（養護教諭教育課程）」(P43) を参照してください。なお、専修学校からの編入生は、養護教諭一種免許状の取得はできません。

(2) 選択科目の履修・単位修得について

養護教諭一種免許状を取得するために単位修得が必要な選択科目は次のとおりです。

①基盤教育科目
- スポーツ実技（1･2 年開講　1 単位）
- 体を動かす楽しみ（1･2 年開講　1 単位）
- 憲法（1･2 年開講　2 単位）

※時間割の関係上、上記 3 科目を 2 年次以降に履修することができない場合があるので、必ず 1 年次に履修し、単位を修得してください。

②専門基礎科目
- 臨床心理学（1 年後期開講　2 単位）
- 学校保健論（2 年後期開講　2 単位）

③専門科目
- 救急・災害看護論（4 年前期開講　2 単位）

④教職に関する科目等
- 教育学概論　（2 年前期開講　2 単位）
- 教育心理学（2 年前期開講　2 単位）
- 生徒指導　（2 年前期開講　2 単位）
- 教育内容論（2 年後期開講　2 単位）
- 相談心理学　（2 年後期開講　2 単位）
- 教職論　（3 年前期開講　2 単位）
- 養護概説　（3 年前期開講　2 単位）
- 教育の方法（4 年前期開講　2 単位）
- 健康相談活動（4 年前期開講　2 単位）
- 養護実習　（4 年後期開講　5 単位）
- 教職実践演習〈養護教諭〉（4 年後期開講　2 単位）

(3) 養護実習・教職実践演習について

「養護実習」は、４年次の８月末から９月末にかけて３週間、学校での実習を行います。さらに、その実習をふまえて、４年次後期科目「教職実践演習」では、養護教諭教育課程の学びの最終的なまとめを行っていきます。「養護実習」の履修については、３年次の前期に希望を調査します。

養護教諭教育課程の履修に際しては、自らの進路について十分考慮し、履修をすすめてください。

8 履修での留意事項等

履修に当たっては、次の事項にも注意してください。

①基盤教育科目は、複数年次開講していますが、時間割によっては希望する年次に履修できない場合があります。時間割上、基盤教育科目と必修科目が同一時限で重複する場合は、必修科目の履修が優先されるので、慎重に選択してください。

②専門教育科目は、開講年次（履修する学年）が定められています。定められた開講年次（履修学年）以外での履修は、原則としてできません。

③時間割上、授業科目は同一時限で複数科目開講されていますが、履修できる科目は、原則として１時限 1 科目です。

④臨地実習の実施の時期は、次のとおりです。
- 基礎看護学実習（１年次２月下旬～３月上旬、２年次８月下旬～９月上旬の夏季休業中）
- 領域別看護学実習（３年次９月上旬～３月上旬）
- 総合実習（４年次５月下旬～６月上旬）

9 履修モデル

履修モデルは、看護師教育課程、保健師教育課程、養護教諭教育課程の各教育課程と、国際看護プログラム、災害看護プログラムの各プログラム修了のために必要な科目とその単位数を、科目配当年次ごとに示したものです。また、各教育課程とプログラムにおける必修科目、推奨科目、資格取得に必要な科目を明記しています。各教育課程において将来目指すべき看護職像や学修目的に適した履修を行っていきましょう。

【看護師教育課程】

基盤教育科目と並行して、専門基礎科目および専門科目を学修し、科学的根拠に基づく創造的・実践的な専門教育により、病院をはじめ、さまざまな保健医療福祉機関で看護活動が展開できる基礎的能力を有する看護専門職を目指す。

【保健師教育課程】

看護師教育課程を基盤に、公衆衛生看護の基礎となる知識や、地域で生活する人々および地域社会が抱える健康課題の解決に向けて主体的に保健活動を展開できる実践能力を修得し、自治体や企業等、地域で活躍できる保健師を目指す。

【養護教諭教育課程】

看護師教育課程を基盤に、看護学を基礎とした科学的思考と根拠に基づいた支援方法を学び、加えて教職や養護に関する知識や技術を修得し、小・中・高等学校や特別支援学校等で活躍できる養護教諭を目指す。

〔国際看護プログラム〕

基盤教育における英語教育および国際看護に関わる専門科目での学修と各自の学習到達目標に基づく主体的な取り組みをとおし、英語実践力の向上に加え、国際理解、異文化理解を深め、グローバルな視野をもつ国内外で活躍できる看護職を目指す。

〔災害看護プログラム〕

災害看護に関わる専門科目での学修と各自の学習到達目標に基づく主体的な取り組みをとおし、多様な場で、災害各期において支援ができる看護の基礎的知識と技術を身につけた看護職を目指す。

凡例：●…必修　○…選択科目　◎…選択科目（選択が推奨されるもの）　★…資格取得に関連する科目

科目区分		授業科目	配当年次	単位数	授業形態	教育課程 看護師	教育課程 保健師	教育課程 養護教諭	プログラム 国際看護	プログラム 災害看護	卒業要件 区分ごとの要件1	卒業要件 区分ごとの要件2	卒業要件 備考
基盤教育科目	フレッシュマンコア	スタートアップ・セミナー	1前	2	講義	●	●	●					
		社会の中で生きる	1前	1	講義	●	●	●					
		アカデミック・セミナー	1後	2	講義	●	●	●					
		地域フィールドワーク	1前	2	講義	●	●	●					
		情報化社会と技術	1後	2	講義	●	●	★					
		データサイエンス入門	1前	2	講義	●	●	●					
		English Reading Skills Ⅰ	1前	1	演習	●	●	★	●				
		English Self-Expression Ⅰ	1前	1	演習	●	●	★	●				
		English Reading Skills Ⅱ	1後	1	演習	●	●	★	●				
		English Self-Expression Ⅱ	1後	1	演習	●	●	★	●				
		English for Academic Purposes Ⅰ	2前	1	演習	●	●	★	●				
		Engish Self-Expression Ⅲ	2前	1	演習	●	●	★	●				
	グローバルコミュニケーション	English for Academic Purposes Ⅱ	2後	1	演習				○				
		Extensive Listening	2後	1	演習								
		Practical English	2前	1	演習								
		中国語 Ⅰ	1・2前	1	演習								
		中国語 Ⅱ	1・2後	1	演習								
		韓国語 Ⅰ	1・2前	1	演習								
		韓国語 Ⅱ	1・2後	1	演習								
		ベトナム語 Ⅰ	1・2集中	1	演習								
		ベトナム語 Ⅱ	1・2集中	1	演習								
		Global Studies Ⅰ	1・2前	2	講義								
		Global Studies Ⅱ	1・2後	2	講義								
		Intercultural Communication	1・2前	2	講義				○				
	ソーシャルサイエンス	日本の歴史と文化	1・2前	2	講義								
		世界の歴史と文化	1・2後	2	講義								
		東北の歴史と文化	1・2後	2	講義								
		人と宗教	1・2前	2	講義								
		現代社会と哲学	1・2前	2	講義								
		心理学	1・2前	2	講義								
		現代社会の諸相	1・2後	2	講義								
		憲法	1・2後	2	講義			★					
		社会と経済	1・2後	2	講義								
	ナチュラルサイエンス	数理科学	1・2前	2	講義								
		生命科学	1・2前	2	講義								
		環境科学入門	1・2後	2	講義								
		地球と宇宙	1・2後	2	講義								
		数学概論	1・2前	2	講義								
		物理概論	1・2前	2	講義								
		化学概論	1・2前	2	講義	◎	◎	◎					看護学群 選択推奨科目
		生物概論	1・2前	2	講義	◎	◎	◎					
		基礎統計学	1後	2	講義								
	アートサイエンス	音楽	1・2前	2	講義								
		美術	1・2後	2	講義								
		健康科学	1・2前	2	講義								
		スポーツ科学	1・2前	1	講義								
		スポーツ実技	1・2前	1	実験・実習			★					
		体を動かす楽しみ	1・2後	1	実験・実習			★					
	留学生対象	日本語 Ⅰ	1前	1	演習								留学生は必修
		日本語 Ⅱ	1後	1	演習								
		日本語 Ⅲ	2前	1	演習								留学生の選択科目
		日本語Ⅳ	2後	1	演習								
		日本事情 Ⅰ	1前	2	講義								留学生は必修
		日本事情 Ⅱ	1後	2	講義								
全学共通科目		コミュニティ・プランナー概論及び演習	2前	2	講義								
		コミュニティ・プランナー実践論	2後	2	講義								
		コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習	3前	2	演習								
		グローバルインターンシップ	1・2集中	2	演習				◎				国際看護プログラム 選択推奨科目
		学外研修	1・2集中	2	演習				◎				
		産学連携講座 Ⅰ	1・2通	1	講義								
		産学連携講座 Ⅱ	1・2通	1	講義								

卒業要件 区分ごとの要件1：必修科目を含めて25単位以上修得／卒業要件単位に含まない

卒業要件 区分ごとの要件2：17単位必修 ※ただし留学生については備考のとおりとする／2単位以上修得／4単位以上修得／2単位以上修得／留学生のみ履修可能

卒業要件 備考：留学生は11単位必修／留学生は2単位以上選択必修

凡例：●…必修　○…選択科目　◎…選択科目（選択が推奨されるもの）　★…資格取得に関連する科目

科目区分		授業科目	配当年次	単位数	授業形態	教育課程 看護師	保健師	養護教諭	プログラム 国際看護	災害看護	卒業要件 区分ごとの要件1	区分ごとの要件2	備考
専門教育科目	専門基礎科目	人間発達学	1前	2	講義	●	●	●			必修科目を含めて23単位以上修得		
		臨床心理学	1後	2	講義			★					
		保健行動科学	2前	2	講義								
		医療倫理学	1前	2	講義	●	●	●					
		人間関係論	1後	2	講義	●	●	●					
		形態機能学Ⅰ	1前	1	講義	●	●	★					
		形態機能学Ⅱ	1後	1	講義	●	●	★					
		形態機能学Ⅲ	1後	1	講義	●	●	★					
		薬理学	1後	2	講義	●	●	★					
		栄養学	2後	2	講義	●	●	★					
		家族社会学	2前	2	講義								
		社会福祉学	2前	2	講義								
		公衆衛生学	1後	2	講義	●	●	★					
		疫学Ⅰ	2後	2	講義	●	★	★					
		疫学Ⅱ	4後	2	講義		★						
		保健医療福祉行政論	3前	2	講義		★						
		学校保健論	2後	2	講義			★					
		病態学	2前	2	講義	●	●	★					
		疾病論Ⅰ	2前	1	講義	●	●	★					
		疾病論Ⅱ	2前	1	講義	●	●	★					
		疾病論Ⅲ	2後	1	講義	●	●	●					
		リハビリテーション学	3前	2	講義								
		代替療法	4後	2	講義								
		看護情報学Ⅰ	2前	1	演習	●	●	●					
		看護情報学Ⅱ	2後	1	講義								
		応用看護情報学	4前	1	講義								
	専門科目	看護学原論	1前	2	講義	●	●	★			必修科目を含めて78単位以上修得		
		看護実践論	2後	2	講義	●	●	★					
		ライフステージ看護学概論Ⅰ	1後	2	講義	●	●	★					
		ライフステージ看護学概論Ⅱ	2前	2	講義	●	●	★					
		地域看護学概論	2後	2	講義	●	★	★					
		看護学研究法	4前	2	講義	●	●	●					
		国際比較看護論	4前	2	講義				○				
		家族看護論	2後	2	講義	●	●	★					
		災害活動論	1後	2	講義					○			
		救急・災害看護論	4前	2	講義			★		○			
		災害看護支援論	4後	2	講義					○			
		実践看護英語演習	3前	1	講義				○				
		治療看護論	2後	2	講義								
		看護技術論	1後	2	講義	●	●	★					
		看護援助技術論Ⅰ	1後	1	演習	●	●	●					
		看護援助技術論Ⅱ	2前	1	演習	●	●	●					
		看護援助技術論Ⅲ	2前	1	演習	●	●	●					
		母性看護援助論Ⅰ	2後	2	講義	●	●	●					
		母性看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●					
		小児看護援助論Ⅰ	2後	2	講義	●	●	★					
		小児看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	★					
		成人看護援助論Ⅰ	2前	2	講義	●	●	●					
		成人看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●					
		成人看護援助論Ⅲ	3前	2	講義	●	●	●					
		老年看護援助論Ⅰ	2前	2	講義	●	●	●					
		老年看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●					
		精神看護援助論Ⅰ	2後	2	講義	●	●	★					
		精神看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●					
		地域看護援助論	3前	2	講義	●	★	●					
		看護マネジメントⅠ	3前	2	講義	●	●	●		●			
		看護マネジメントⅡ	4前	2	講義	●	●	●					
		在宅看護援助論Ⅰ	2後	2	講義	●	●	●					
		在宅看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●					
		緩和ケア論	4前	2	講義	●	●	●					
		卒業研究	4通	2	演習	●	●	●					
		基礎看護学実習	1後～2前	3	実験・実習	●	●	★					
		母性看護学実習	3後	2	実験・実習	●	●	●					
		小児看護学実習	3後	2	実験・実習	●	●	★					
		成人看護学実習	3後	6	実験・実習	●	●	●					
		老年看護学実習	3後	3	実験・実習	●	●	●					
		精神看護学実習	3後	2	実験・実習	●	●	●					
		地域看護学実習	3後	2	実験・実習	●	★	●					
		在宅看護学実習	3後	1	実験・実習	●	●	●					
		総合実習	4前	2	実験・実習	●	●	●					

凡例：●…必修　○…選択科目　◎…選択科目（選択が推奨されるもの）　★…資格取得に関連する科目

科目区分		授業科目	配当年次	単位数	授業形態	教育課程 看護師	保健師	養護教諭	プログラム 国際看護	災害看護	卒業要件 区分ごとの要件1	区分ごとの要件2	備考
専門教育科目	専門科目	公衆衛生看護援助論	3前	2	講義		★				必修科目を含めて78単位以上修得		
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	4前	2	講義		★						
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	4前	2	講義		★						
		公衆衛生看護活動論演習Ⅰ	4前	1	演習		★						
		公衆衛生看護活動論演習Ⅱ	4前	1	演習		★						
		公衆衛生看護マネジメント	4後	2	講義		★						
		公衆衛生看護学実習	4後	3	実験・実習		★						
	養護教諭一種免許状に係る科目	養護概説	3前	2	講義			★			卒業要件単位に含まない		養護教諭一種免許状取得に必修
		健康相談活動	4前	2	講義			★					
		教職論	3前	2	講義			★					
		教育学概論	2前	2	講義			★					
		教育心理学	2前	2	講義			★					
		教育内容論	2後	2	講義			★					
		教育の方法	4前	2	講義			★					
		生徒指導	2前	2	講義			★					
		相談心理学	2後	2	講義			★					
		養護実習	4後	5	実験・実習			★					
		教職実践演習（養護教諭）	4後	2	演習			★					
基盤教育科目、専門基礎科目、専門科目の合計						122	139	157			卒業要件単位数126単位以上修得		

1 看護学群 看護学類について
2 看護学類の科目配当
3 卒業に必要な単位数及び卒業要件
4 教育課程の特色
5 看護師教育課程
6 保健師教育課程
7 養護教諭教育課程
8 履修での留意事項等
9 履修モデル

1 看護学群 看護学類について
2 看護学類の科目配当
3 卒業に必要な単位数及び卒業要件
4 教育課程の特色
5 看護師教育課程
6 保健師教育課程
7 養護教諭教育課程
8 履修での留意事項等
9 履修モデル